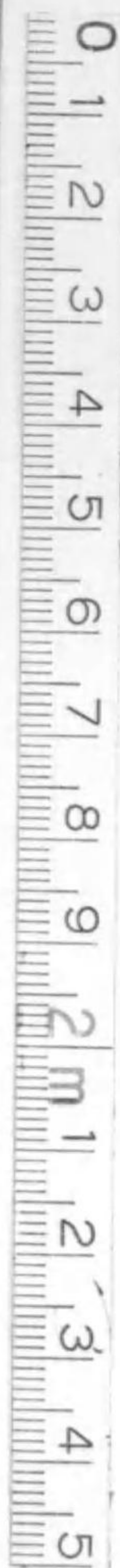


始



東京助醫女學校  
校長醫學士 佐久間兼信 著

# 産婆學獨習書

第二卷 正規妊娠

師講名一



58-143

(1)

序

産婆開業者には	受験生徒には	生徒には	通學中の	遠地在住の爲め 他の事情の爲め	教科書は	獨習書は
	産婆開業者には	記憶用産婆學となり	本教科書を使用せぬ學校では	本教科書使用の學校では		
備忘録となり	記憶用産婆學となり	参考書となり	教科書となり	學校の黑板となり	教科書は	獨習書は
新智識補 講演雜誌と 本なる	試験答案集となり	補習書となる	前日の復習書 後日の復習書 となる	講師となる	教科書は	獨習書は

此獨習書は、書齋の机上で出来たのでなくて、是迄幾百の産婆資格者を送り出した教室から生れ出たので、本書と教科書と相俟つて次の諸種の用を兼ねさせたいのである。

18.10.10 轉換

大正 9.5.10 内交

獨習に就ての注意

- 一、先づ最初に 月 日 全部に日附を書き込みて、其當日には必と怠らずに、其日課を脩めなさい。
- 一、三ヶ月で全部を脩めたい人は、月 日の二日ぶりづゝ同じ日を書き込み、一年で終りたい人は、一日置きの日を書き入れ、ばよい。尤も日曜大祭日は休みとするのである。
- 一、宿題、書取、復習、臨時試験の答は、各自の帳簿に順に記載して置くがよい。

月 日 (曜日)

講義

産婆學の本論を次の六つに分けて講義しよう。

- (一) 正規妊娠
  - (二) 正規分娩
  - (三) 正規産褥
  - (四) 異常妊娠
  - (五) 異常分娩
  - (六) 異常産褥
- 第一編 妊娠の状態  
 第二編 妊婦の診察  
 第三編 妊婦攝生法

の三編に分ける。

(教科書一五五頁—一五六頁)

第一編 妊娠の狀態

妊娠の定義及種類

妊娠の定義及種類

定義とは前述の如く出來得るだけ簡單に説明し、而も他の事柄と混同せしめざる様に云ひ表さなければならぬ。包容とは包み容るゝと云ふ意味で、正規妊娠に於ては子宮内膜に包容し。喇叭管妊娠にては喇叭管内膜に包容するのである。前にも述べた様に卵が受精した後子宮内膜に附着する迄の間は未だ妊娠でなく。又卵子の表面が子宮壁より剝離し初めて後全く排出せらるゝ迄の間は分娩であつて最早妊娠と云へない。即ち妊娠の定義を次の様に説明したらよい。

「妊娠とは受精したる卵子が子宮内膜に附着したる時に始まり、之が次第に發育成長して體外に排出せられんとする時に終る」

種類を「胎兒の數」と「妊娠の経過」とにより次の様に分ける。  
第一 胎兒の數によつて、先づ單胎妊娠と複胎妊娠とに分け。複胎妊娠を一名「多胎妊娠」又は「數胎妊娠」と云ふてもよい。  
双胎とは二兒、品胎とは三兒、要胎とは四兒、周胎とは五兒を云ふ。双胎は八

十回の分娩中に一回位の割合に見るもので割合に多いものであるから諸姉の親戚知人中に恐らく一人位は双胎の人があるであらう。然るに品胎となると甚だ稀で八千回に一回、要胎は三十八萬回に一回、周胎は極めて稀で我國にては會て福島縣下にあつた。又亞弗利加之土人で六兒を分娩したのもあつた。

第二 妊娠の経過によつて、正規妊娠と異常妊娠とに分ける。

一 正規妊娠

正規妊娠の持續を凡そ二百八十日と云ふのは、最終月經の第一日より分娩までの日數を多くの人につき計算した平均數であるから、人によりて多少の相違は免れ難いのである。(甚だ少きは二百四十日甚だ多きは三百二十日にしてしかも正規と認むべき場合もあれど斯く四十日も相違するは稀である。)  
眞の妊娠の初日は最終月經の第一日より後であるから、實際の妊娠持續數は二百八十日より少ないものに相違ない。然るに其妊娠の初日即ち受精卵の子宮内膜に附着した日は到底吾人に判らないから、眞實の妊娠持續日數は全く不明である。



以上の中、排卵受胎着床等の日は、到底吾人の窺知するに由ないものだが、右の日取りは多くの實際と甚だしい相違のないものと信ずる。然るに俗間では精子の進入後月經を見なければ妊娠しないものと考へるから往々次の様な誤解を生ずることもある。

某處女三月一日より五日間月經を見三月七日に結婚し、其後一回も月經を見ずに妊娠したので、姑より結婚前の節操を疑はれ殊に二月八日に成熟した嬰兒を分娩したとき結婚後二百八十日にならないとて將に問題を起さうとしたが、醫師の懇ろなる説明によりてやつと理解させる事が出来た、即ちこれは三月一日より数日前の排卵は、受胎及妊娠せず其儘死滅したから、其卵の種殖(附着)を待ち受けて居た月經脱落膜は折角の準備の必要なくなり、爲めに三月一日より五日迄の月經となつたので此月經は後の妊娠に何等關係ないのであつた。然らば此場合何時妊娠したかと云ふに、無論結婚後より三月の末日迄(即ち此次に月經の來るべき日取まで)の間に妊娠したるもので、最終月經後三月に排卵した卵が受胎したればこそ、三月の末日若くは四月の始めに來るべき筈の月經が閉止したのである。右の理由を證明するに次の様な例もある。

數年來獨身だつた某婦人が前年十二月二十五日から三日間月經を見其後月經閉止したので三月初旬に診察を受けに來た。予は妊娠と診斷したら最初は全く其んな理由はないと否定したが、遂に「先夫の上京に際し一月二日に只一回邂逅した」と自白した。

斯んな事實は往々あつて、而も種々の誤解を生む事があるから、産婆として斯んな場合に之を説明し得る丈に此道理をよく心得て置かねばならない。尤も夫の遠地に旅立ちたる後直ぐ最終月經を見、妊娠したと云ふ様な例もないでない、此場合は次の二様に説明出来る。

イ 最終月經と見たのは眞の最終月經でなくて、妊娠中の月經様出血と見るべきものであつたかも知れない。

ロ 前巻に述べた様に、卵は僅かに三日位にて死滅するも、精子は四週間も長く輸卵管内にて生活し得るから、最終月經前に入り來た精子が、其月經數日前に排卵した卵とは會合せず、尙餘命を保ち次回に排卵した卵と合して之を受胎せしめたものと云ふ事も出来る。

以上の様に最終月經より數へ、約二百八十日前後に分娩し、而も胎兒の發育完全で、妊娠經過中母體にも著しい障碍の來ないものを正規妊娠と云ふのである。

尤も假令正規と雖も多少の障礙は免れ得ぬもの故「著しき障礙の來らざる云々」と云ふのである。

二 異常妊娠

受精卵が輸卵管を通じて子宮腔に向つて進入せようとする途中、管腔狹小等の障礙の爲め先に進み得なかつた場合には、其場所に於て發育し所謂輸卵管妊娠と稱する異常妊娠となるのである。

卵子の異常状態とは胎兒附屬物又は胎兒其者の異常を云ひ。「母體の著しき障礙」とは、妊娠の結果起つた障礙の甚しいもの又は妊娠と同時に偶然合併した疾疇等を云ふので、以上何れも第四卷妊娠異常に於て其詳細を述べよう。

政府試験問題

○ 受胎と妊娠の意義及區別

答。總て意義は定義を記して多少之れに説明を附すべし。區別は第二頁 (京都大正六四) (埼玉大正九四)

○ 妊娠の意義

月 日 (曜日)

復習

27 器械煮沸消毒及藥液消毒に要する時間を問ふ。

28 煮沸消毒の際に重炭酸「ナトリウム」を加ふる理由如何、及び其割合を問ふ。

29 繃帶材料の蒸氣消毒に要する時間を問ふ。

講義

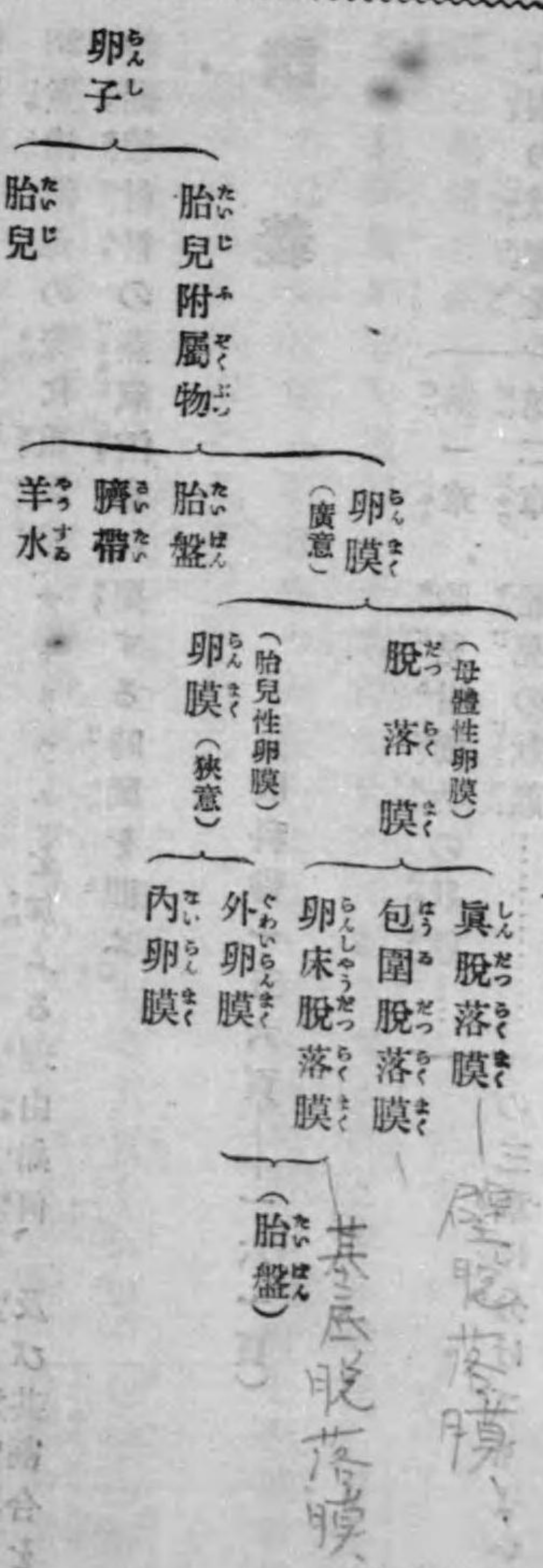
(教科書一五六頁—一六一頁)

妊娠の狀態を

- 第一章 胎兒附屬物の狀態……
- 第二章 胎兒の狀態……
- 第三章 母體の狀態……

の三章に分けてもよす。

第一章 胎兒附屬物の狀態



右の如く卵膜とは胎兒及胎兒附屬物を云い、胎兒附屬物とは、卵膜胎盤臍帶羊水の四つを云ふ。卵膜は之を嚴密に云ふと胎兒性卵膜(即ち卵より生じた外卵膜及内卵膜)を云ふものだが、廣意に解釋すると子宮粘膜の變形物たる脫落膜をも卵膜に加へてよい。殊に脫落膜の一なる卵床脫落膜と外卵膜の一部と相合して生じた胎盤は何人も之を胎兒附屬物に加ふるのである。

第一節 卵膜

一 脫落膜

前卷に述べた如く、月經を見る間の年齢に於ける婦人の子宮粘膜は、凡そ四週間に周期的變化を營み、常時一分の厚さの粘膜は月經前腫脹期に於ては二分以上に肥厚し且つ充血し、以て受胎卵の附着した場合に直ちに之を養ひ得る様に準備するのである。丁度胎内に子を宿すと云ふ言葉のある通り、子宮は宿屋の如きもので、月經脫落膜と云ふ厚い蒲團を敷き血液なる御馳走を澤山に調へて、受胎卵と云ふ御客様の到着を待つて居る。此場合に若し御客様の到着のな

い時は不要となつた御馳走は流し口より捨て去る即ち月經となるのだが、幸にして御客様たる受胎卵が此宿屋に到着すれば、蒲團を愈豊かにし、御馳走を益々充たして専ら御客様の意を向へる、即ち月經脫落膜は更に一層肥厚且つ充血して「脫落膜」即ち「妊娠脫落膜」と變ずるのである。此厚さは三分以上にもなる。此卵が子宮粘膜に附着するのを着床又は種植と稱し、只に脫落膜組織が周圍よ



り包圍するのみならず卵自身も内部に侵入する性質を有つて居るから其固着は愈々確實となるのである。

此脱落膜は後に卵膜の一部となり、分娩時に子宮内面より剝れ落つる故「脱落膜」と云ひ。又多数の小孔を有し篩の如く見ゆる故一名「篩状膜」とも云ふのである。

(一) 卵床脱落膜は後に絨毛膜の絨毛と相合して胎盤を形成するのである。

(二) 包圍脱落膜(包被脱落膜)を昔は「轉脱脱落膜」と稱した。其時代に脱落膜は子宮粘膜の變形物ではなくして粘膜の上に生じた別の口の無い囊と考へたから、卵が輸卵管より入つて来た時は、脱落膜の外面より膜と共に膜の腔内へ膨れ出て即ち膜の一部を外より内部へ「轉脱」(裏返し)せしむるものと考へた。故に卵と共に内部へ膨れ出た部分の脱落膜を「轉脱脱落膜」と稱したのである。

(三) 眞脱落膜の一部分は分娩時に卵膜剝離の際に子宮内面に残り、後に之より子宮内膜を再生するのである。眞脱落膜は全く口の無い囊ではなく左

右喇叭管子宮口及子宮内口は開口して居る。之に反し包圍脱落膜は全く口の無い囊と見てよ。

口の無い囊と見てよ。

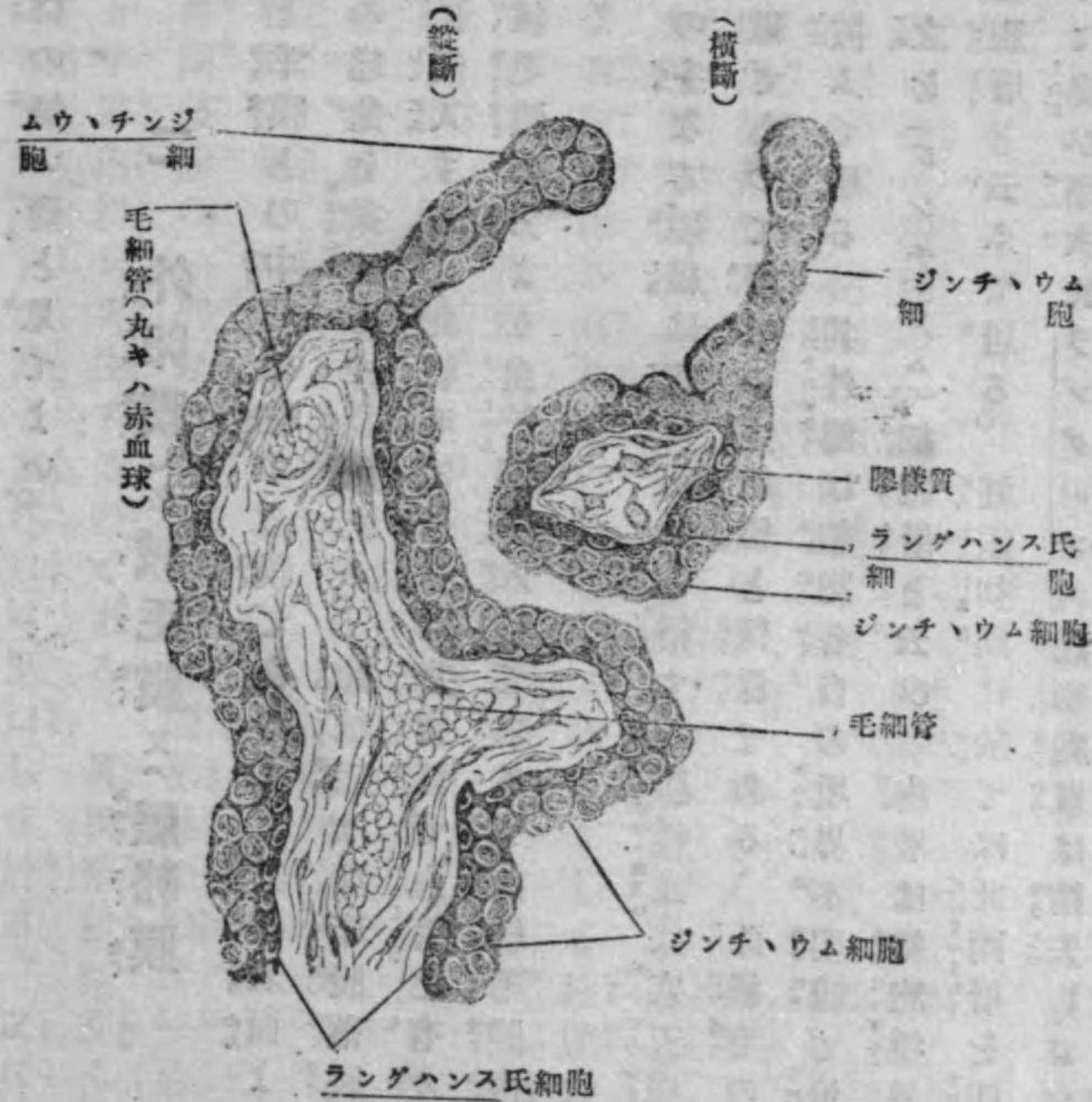
### 二 外卵膜一名絨毛膜又ハ脈絡膜

脱落膜と羊膜との中間に位する膜であつて、其全表面より絨毛を生じた有様は恰も粟の穂を柔くした様である。此絨毛は卵床脱落膜及「轉脱脱落膜」中に樹の根の様に侵入する、此絨毛は最初は實質性で血管を有たないが、妊娠第三週に入ると絨毛膜の方より血管が侵入して来る。此絨毛膜内の血管は臍血管の續きである。

此絨毛の主なる組織は膠様組織と稱する膠様或は寒天様に「ぶり／＼」したる一種の結締組織であつて臍帯の主組織と同様である。此絨毛の外表を二種の細胞層を以つて被ふて居る。其外層は細胞各自の境界不明瞭で恰も一の膜の様になつて居る。之を「ジンチ、ウム」細胞層と云ひ、内層は細胞境界明瞭で之を「ラング、ハン」ス氏細胞層と云ふて居る。妊娠初期に於ては此兩層を明かに認め得るが、時日の経過に従ひ漸次に「ラング、ハン」ス氏細胞層は消失し「ジンチ、ウム」細胞層のみと

圖二百二十第

(大廓鏡微顯) 毛 絨



なつてしまふ。  
 此「ジンチ、ウム」  
 細胞のみが(或はラ  
 ングハンス氏細胞  
 と共に)濫りに盛に  
 増殖すると「ジンチ  
 チオーム」と云ふ惡  
 性の腫瘍となる。  
 即ち「ジンチ、ウム」  
 と稱する間は正規  
 だが「ジンチ、オー  
 ム」と稱する時は異  
 常である。  
 此「ジンチ、オーム」

は多く葡萄状鬼胎と稱する異常妊娠の後に出来るもので、稀に流産後に發生する。正規分娩後にも出来ないが頗る稀有である。

### 三 内卵膜一名羊膜

羊膜は、水に浸し軟かくした膀胱製氷嚢を一層菲薄透明にした様なものと想像したらよい。  
 後産の娩出後諸姉は此透明菲薄の羊膜と稍厚い粗糙な絨毛膜とを別々に容易く剝離する事が出来る。次で尙胎盤の胎兒面を被ふ羊膜をも剝離し得るが、臍帯の附着部に到ると遂に之を剝離する事が出来なくなる。此胎盤胎兒面を被た羊膜の續きは更に臍帯の外面を被ひ胎兒の臍部に達する。胎兒發生學上より云ふと、胎兒の表皮は此羊膜の連續である。

羊膜の構造。羊膜は薄い結締織の膜であつて其胎兒面は一列の上皮細胞で被はれてある。近來の學說によると此上皮細胞には分泌作用があると云ふことだ。

書取

「しやうが」「ふぞくぶつ」「みやくらくま」「じふまう」「ひはくとうめい」「だんりよく」

誤り易き字

複胎、反復、顛覆。漸次、暫時。

政府試験問題

○妊娠によりて起る子宮内膜の變化

○卵膜とは如何及其構造

答。第一節の大略を述べ構造につきては説明書を参考すべし。

○卵膜に就て記せ

○凝血と脱落膜との區別

答

(一)之を水中にて洗ふ時は血色減褪す。

脱落膜

(一)之れを水中にて洗ふに依然暗黒色を呈す。

凝血

(兵庫大正四、四)

(茨城大正四、四)

(埼玉大正五、十)

(千葉大正四、十)

(二)水中にて検査せば多少膜状を認む。  
(三)之れを離断せんとするに相當の抵抗あり。

(四)其剖面粗糙にして光澤なし。

○妊娠卵子に就きて

答。卵子とは卵膜胎盤臍帶羊水及胎兒の全部を稱するものなるが故に、第一章及第二章の大略を時間相應に記載すべし。

○妊娠に就いて記せ

(東京大正七、十)

空腹に堪へて取り上げ婆が喰ひ

産のかへりのみち草の餅

(助産の癡)

月 日 ( 曜日 )

復 習

- 30 脱落膜の種類を問ふ。
- 31 包圍脱落膜に對する部分の絨毛が消失し初むる時及其全く消失する時期を問ふ。

講 義

第二節 胎 盤

(教科書一六一頁——一六八頁)

一 胎盤の形成及構造。  
 絨毛膜の絨毛を植木の根に喩ふれば、植木鉢中の土は卵床脱落膜に相當するもので、其土の間にある水分は母體性の血液に相當する。根が盛に蔓りて水分を

吸収し幹を通じて枝葉を養ふ様に、絨毛は母體の血液を吸収し臍帶を通じて胎兒全身に達し之を養ふのである。此絨毛即ち根が極めて盛に發生する時は分枝したり迂曲したりして脱落膜中に複雑な状態に蔓延するのである。植木鉢は子宮壁に相當するもので、此鉢を抜き取つた根と土の一塊を胎盤と見たらよい。脱落膜の組織とは腺管脱落膜細胞及血管を云ふのである。此等の成分は常時の子宮粘膜にも存在するのだが、腺管は細くて表面より井戸の如く單に眞直に入り込むのみである。腺管と腺管との間を充す細胞は極めて小さくて其間に在る血管も極めて細い。然るに月經前腫脹期となると、此腺管は迂曲分枝し、細胞は大さくなり、血管も太くなつて來る。尙進んで脱落膜となると此腺管の迂曲分枝は益々複雑となり、細胞も甚だ大きくなり脱落膜細胞と稱けられ、血管も甚だ太くなり充血が甚しくなるのである。然るに絨毛表面の細胞は脱落膜組織を腐蝕溶解して益々四方に侵入する性質を有つて居て、此脱落膜中の母體血管の壁をも侵蝕破壊し大きな血腔を作り絨毛は此腔の血液中に直接浸さるゝ様になる。此腔を絨毛間腔と云ふて居る。而し

て此腔と腔との間にはまだ侵蝕されない脱落膜の實質が中隔として残り、此中隔によつて胎盤は數多の小さい部分に區分されて居る。其小さい部分を分葉と云ふて居る。それ故胎盤には二種の血行がある。一つは母體血行で、内腸骨動脈より分れて子宮に入つて來た子宮動脈の連續で、子宮胎盤動脈と云て居る。其血液は絨毛間腔に注入されて後、子宮靜脈(又は胎盤の邊緣にある輪狀靜脈)の中に還流するのである。他の一つは胎兒血行で胎兒の内腸骨動脈より分れ、臍動脈を経て絨毛内毛細管に入り、絨毛間腔を流るゝ母體の血液との間に新陳代謝を行つた後臍靜脈に入り胎兒の心臟に向つて還流するのである。即ち母體の血液と胎兒の血液とは直接相交通しないのである。

### 二 胎盤附着の位置

胎盤は稀に子宮の側壁に附着する事もある。子宮體の上方に附着した時は其下縁は妊娠末期に於て子宮内口より約一手幅以上上方にあるのである。(一手幅とは手掌の横幅である)

### 三 胎盤の形及質

時としては種々の形を呈する事がある。後に胎盤異常の條下に於て述べよう。

### 四 大き及重量

胎盤の母體面に石灰がある、此石灰と石灰を擦り合すと「ゴシ／＼」と音がすると思像し(實物は音のする程大きな石灰ではないが)五四五瓦と記憶したらよい。胎兒の重量は胎盤の凡そ五倍半である。

545 × 5.5 = 2997.5瓦 = 約300瓦

此記憶法は胎盤と石灰、石灰と五四五、從つて胎盤と五四五と聯想するのである。然らずして只石灰と五四五丈を覺ゆると何の重量であつたか思ひ出し得ない事もある。

### 五 胎盤の兩面

- (1) 母體面 子宮に附着した部を云ふのである。其状態は團子を竹の皮に包んだのを押し潰した時の状態を想像したらよい。其一つの團子は分葉に相當するのである。灰白色の結締織は所々に島嶼狀に散點して大小種々ある。
- (2) 胎兒面 胎兒に對する面を云ふので之を被ふ羊膜は容易に剝離する事が出

第二編 妊娠の狀態

來る。羊膜は菲薄透明であるから之れを剝離した後の胎兒面の狀態は羊膜存在時と大差ない様に見える。

放射状とは、太陽の御光の様に中心より周邊へ向つて散開するのを云ふ。怒張とは、充ち張るのを云ふ。怒る時額に立つ青筋は靜脈の怒張したのである。

蜿蜒とは、うねりくねることである。

六 胎盤の機能

「呼吸作用」とは、胎兒血液中の炭酸を絨毛間腔の血液に與へ其血液中の酸素を胎兒血液中に收受する一種の瓦斯交換である。胎内にては肺の呼吸作用が無いから其代用をする。「營養作用」とは、母體の血液より種々の營養物を吸収する作用であつて消化器の代用をする。「排泄作用」とは、胎兒血液中の老廢物を母體の血液中に與ふる作用であつて腎臟等の代用をするのである。母體血液と胎兒血液との間に境せらるゝ膜は「シンテ、ウム」細胞層、ラングハンス氏細胞層、膠様組織及毛細管壁の四つである。

第三節 臍帶

一 臍帶の形狀及長さ

成熟胎兒の身長は凡そ五十仙米であつて臍帶の長さは其身長に殆ど同じである其太さは大人の小指——示指大と見たらよい。

二 臍帶の捻轉

諸姉が手拭を搾るに當り右手を左手より向ふへ置き搾つた捻れ方は左捻である。臍帶を己れの眼より前方へ延して其捻轉方向を定めるに、胎兒側より望むも胎盤側より望むも其捻れ方の方向に相違はない。諸姉自ら絲束等を捻りて研究なさい。

三 臍帶の組織

ワルトン氏膠様質は一名酸肉組織とも云ふて居る。臍帶の横斷面を見ると卵黄管の遺物及尿管の遺物がある。これ等は何れも胎兒發生の始めに於て存在したもので卵黄管は始めは卵黄囊と云つて胎兒の腹部に在る大きな囊であつたので

ある。哺乳動物では、胎兒發生の最初、絨毛によりて母體と連絡を始むる迄の間は此中の營養物で養はれたのだが、其以後は此必要がなくなるから細い管状の物となつて、其先端だけ僅かに囊状に膨れて残つたのである。其細い管は卵黄管と稱へ臍帶鞘の直下にある、囊状の部分は臍小胞と稱へ米粒大の小さな囊として胎盤胎兒面羊膜の直下に見附け得ることがある、分娩後後産を檢するに當り胎盤より剥れた羊膜を透し見るか又は水中に入れ其下に黒き布を敷いて上より見ると臍帶附着部より一寸位離れた處にある。尿管の始めは尿管と云つて同じく胎兒の腹面にて卵黄囊よりも尾部に近い部より囊状に膨れ出でて、後に胎兒の血管を絨毛膜に導き進んで其絨毛中に入るのである。此尿管は臍帶の中央に遺つてある。(第八十三圖第八十四圖第八十五圖)

四 臍帶の結節

眞結節は臍帶の長くなつた後、胎兒が臍帶の係締(む)を通りぬけて自ら結んだものである。此結節が緩い間は障礙は無いけれども、強く結ばると臍帶血管の血行を妨げ胎兒に危険が起る。

五 臍帶の胎盤に附着する位置

(胎盤の中央及邊緣以外の部位に附着するのを側方附着と云ふのである)

- (イ) 中央附着……二割
- (ロ) 側方附着……七割
- (ハ) 邊緣附着……一割
- (ニ) 卵膜附着(分娩二百回中一回)は雙胎の時に多い。此時は血管が卵膜中を走るから分娩時に卵膜の破るゝ際に血管も共に破れて出血の危険がある。

書取

「へんえん」「すうそ」「そざう」「どちやう」「えんえん」「ねんてん」「こうやうしつ」

誤り易き字。

橢圓形、嚕胎、骨髓、婉隨、隨意筋、怒張、腫脹。

政府試験問題

◎胎盤に就て記せ

(埼玉大正八、四)(東京大正五、四)

- 胎盤の發生及其作用
- 胎盤の大きさ及其機能
- 胎盤の構造及其生理的作用
- 胎盤の構造及其機能
- 胎盤の機能
- 臍帶、胎盤とは如何其機能
- 胎盤、臍帶の機能及構造
- 臍帶の長さ

答。通常五〇仙米位なるも稀に甚だ長くして一間に近き事あり、或は反對に甚だ短くして胎盤と臍輪と殆ど相接觸する事あり。

(神奈川大正六、四)  
 (埼玉大正六、十)  
 (東京大正七、四)  
 (愛媛大正七、四)  
 (香川大正七、四)  
 (東京大正四、四)  
 (千葉大正八、十)  
 (埼玉大正六、十)  
 (東京大正二、十)  
 (愛知大正五、十)  
 (茨城大正六、十)  
 (愛媛大正七、四)

月 日 ( 曜日 )

復習

- 32、胎盤の完成せらるゝ時期を問ふ。
- 33、臍帶横断面を圖解せよ。(畫きて名稱を附す可し) 臍帶の何附着が最も多きや。

講義

第四節 羊水(胎水)

(教科書一六八頁——一七一頁)

一 性質及量  
 羊水の潤濁即ち濁るのは胎兒の毳毛上皮胎脂等を混ざるからである。毳毛は細い薄い短かい軟かい毛である。胎脂は胎兒の皮膚の上に附着してゐる「バター」又は



第一編 妊娠の状態

軟膏の様な白い脂である。羊水の中には近來酸酵素(例へば「チアスターゼ」「ペプトン」等)も發見せられた。鹽類は通常何酸何々と云ひ。羊水中の鹽類は炭酸曹達、硫酸曹達、磷酸曹達、硫酸石灰、磷酸石灰等である。其他羊水中には尿の成分中に見るべき「尿素」がある之れは胎兒が排尿したから出たのである。

二 羊水の効用

甲 妊娠中の効用

- (一) 卵膜に關するもの………
  - (二) 胎盤、臍帶に關するもの
  - (三) 胎兒に關するもの………
  - (四) 母體に關するもの………
- と記憶したらよい

乙 分娩中の効用

- (一) 卵膜に關するもの………

- (二) 胎盤に關するもの
  - (三) 臍帶に關するもの
  - (四) 胎兒に關するもの
  - (五) 母體に關するもの
- 右は單に諸姉の記憶の爲めに述べたもの故試験答案には「何々に關するもの」等と記さないがよい。
- 胎胞とは卵膜の一部が分娩時に子宮口の方へ膨れ出てた部で、其内部に羊水の一部分が有る。

三 羊水の起源

- (一) 母體の脱落膜血管から滲出する。
- (二) 胎兒の皮膚血管及臍帶血管よりも滲出する、妊娠末期には尿として排泄せられたものも混ざる。
- (三) 羊膜上皮より分泌せらるゝ液も混ざる。
- (一) 母體の血管から滲出すると云ふ證は次の通りである。

(1) 動物試験で、母獸の皮下に色素液を注射し或は之を内服せしむると、胎兒の尿又は膀胱が染色せられないうちに羊水は既に着色する。即ち色素液は母體の血液の方から羊水へ直接出て來たのである。

(2) 母體の浮腫が甚しい時に羊水が多い。之れは母體の血液循環が悪いために浮腫も起り同時に羊水も多くなつたのである。

(二) 胎兒の血管系からも滲出すると云ふ證は次の様である。

胎兒に血行障礙ある特殊に一卵性双胎(一卵に二精子の受精して出來た双胎)又は胎兒梅毒の時に羊水過多症が多いから胎兒の血液から羊水が出ると見てよ。

(三) 羊膜上皮細胞からも分泌すると云ふ説もある、之は新しい説である。

説明書中に稍高尙に過ぐる學説又は餘りに詳細な組織的構造等を講述し置いたのは素養ある人の參考にしたいのであるから、一讀して解らなければ其儘取捨して置てよ。

書取

「こんだく」「はんのう」「たんぱくしつ」「ゆちやく」「しうりよく」「しやうとつ」「だぼく」「えいきやう」「はくり」「ねんくわつ」「ちよりう」「せいまう」「たいふん」

○ 羊水とは如何其効用

○ 同上

○ 同上

○ 羊水の性質及其効用

○ 同上

○ 同上

○ 羊水の効用

○ 同上

○ 同上

○ 羊水の妊娠及分娩に於ける價值

○ 羊水の作用を詳述せよ

(福島大正七、十)

(千葉大正四、四)

(東京大正四、四)

(茨城大正五、十)

(東京大正四、十)

(慶尙北道大正六、十一)

(三重大正七、二)

(宮城大正七、四)

(江原道大正七、四)

(京都大正七、四)

(全羅南道大正七、四)

第一編 妊娠の狀態

○ 羊水の出場所を問ふ

◎ 假羊水とは如何

◎ 羊水に就て

○ 羊水と胎兒との關係

(埼玉大正六、十)

(埼玉大正六、十)

(長野大正七、四)

(東京大正九、四)

故郷や隣に緒になく年のくれ

(芭蕉)

誰やらに肖た乳もらひの後影

(鹿魚)

月 日 (曜日)

### 復習

34 妊娠末期に於ける羊水の量は凡そ幾「リイタル」なりや。

35 羊水の効用を述べよ。

### 講義

(教科書一七一頁——一七六頁)

### 第二章 胎兒の狀態

胎兒に關しては、第一節妊娠各月に於ける胎兒、第二節成熟兒の頭蓋、第三節成熟兒と早熟兒との區別、第四節胎勢胎位胎向、第五節胎兒の營養及血行、の五節に分けて述べよう。

第二章 胎兒の狀態

第一節 妊娠各月に於ける胎兒

妊娠各月に於ける胎兒の狀態を知るには、臨床上妊娠月數を診斷するに必要ならばかりてなく亦娩出した胎兒が妊娠何ヶ月なるかを定めるにも必要である。

例へば妊娠四ヶ月以内と認められた時は普通胞衣と同様に取扱つてよいが、五ヶ月以上と認められた時は之を役場に届出なければならぬ。其他月足らずの子か否かの問題等で裁判上證人に立つ事も無いでもないから、産婆は其取扱つた胎兒の月數を凡そ定めて之を帳簿に記載して置くこと宜い。

妊娠持續を二百八十日と定め之を十分した二十八日を一ヶ月とする。

二ヶ月の中旬に頭部が軀幹から明かに分離する様になれば眼耳鼻口もよく判つて来る。

四ヶ月末より胎兒が運動を初めるから聴診の時胎動を聴取する事もある。

五ヶ月の終りには胎動も活潑となるから妊婦自ら胎動を感じ又産婆が之を觸知することも出来る。

此時期に娩出した胎兒には心臓の鼓動を認め得る程に心動も活潑となるから、此頃から聴診上胎兒心音を聴取出来る。

落屑とは表皮の剝るゝのを云ふ。

第七ヶ月の生兒は甚だ稀に生育することもあるが無論特別な注意を要するのである。

胎兒身長の概數を速算するのは、妊娠前半期にては月數を二乗し、後半期にては、月數に五を乗じ、斯くして出た數を胎兒身長センチメートルと見做すのである。

然しこれはハリセ氏の法で本邦人胎兒には少しく長過ぎる。故に先づ此法に依りて記憶し、そして後未熟兒七ヶ月以内にては各月の出た數から一仙米を減ずればよい。尤も第一ヶ月の一仙米から一を減ずれば〇となる故此月丈は特別に三割引の〇七仙米と記憶するとよい。

早熟及び成熟兒にてはハリセ氏の儘で本邦人胎兒の身長に適してゐる。

胎兒體重は前半期にては人々の計算量が種々で一定しないから第十五表では後半期の體重だけを掲げてある。成熟兒の體重は三千瓦なることを先づ確實記憶

して然る後一ヶ月早い毎に五百瓦づつを減じたらよい。但し二千瓦なる數は無くて八ヶ月は一五〇〇瓦だと記憶しなければならぬ。尙ほ次表の様な柳氏體重概算法もある。凡て月數を三乗して、更に前半期では二を乗じ、後半期では三を乗ずればよい

胎兒體重概算法

月數	胎兒體重
1	$1^3 \times 2 = 2$ 瓦
2	$2^3 \times 2 = 16$ 瓦
3	$3^3 \times 2 = 54$ 瓦
4	$4^3 \times 2 = 128$ 瓦
5	$5^3 \times 2 = 250$ 瓦
6	$6^3 \times 3 = 648$ 瓦
7	$7^3 \times 3 = 1029$ 瓦
8	$8^3 \times 3 = 1536$ 瓦
9	$9^3 \times 3 = 2187$ 瓦
10	$10^3 \times 3 = 3000$ 瓦

書取

「らくせつ」「たいし」「みじゆくたいじ」「がんばう」

政府試験問題

○子宮内に於ける胎兒の狀態

(茨城大正四、四)

答。妊娠各月に於ける胎兒の外に第四節をも加ふるや否やは試験場に於ける説明の如何により決すべし。

- 胎兒發育の狀態 (埼玉大正四、四)
- 胎兒發育の狀態 (茨城大正五、四)
- 胎兒發育の狀態 (兵庫大正二、四)
- 胎兒發育の狀態 (千葉大正五、十)

月 日 ( 曜日 )

### 復習

- 36、第一、二、三ヶ月に於ける卵子の大きさを問ふ、及び胎芽と稱するは何時迄なりや。
- 37、胎児皮膚に著しき革命(變化)を來すは何ヶ月頃なりや。
- 38、未熟兒及早熟兒とは何ぞ(徵候を問ふにあらず)

### 講義

(教科書一七六頁——一八〇頁)

### 第二節 成熟兒の頭蓋

胎兒頭蓋は、分娩時産道を通過する胎兒部分中周圍が最も大きくて且最も硬いから、其通過が最も困難で従つて重要な部分である。且成熟の度を知るにも必

要な標準となるから特に注意しなければならない。

#### 一 縫合

顛骨鱗狀部と顛頂骨との間に在る縫合を「鱗狀縫合」と稱ける。(第一卷第九圖参照)

#### 二 顛門

前側顛門は前頭骨顛頂骨蝴蝶骨の相會する所にある。

後側顛門は顛頂骨顛骨後頭骨の相會する所にある。

#### 三 成熟兒頭の諸徑線及周圍

(一)前後徑(縱徑線、前額後頭徑)眉間と後頭結節との間の距離と云ふ人もある。後頭結節は外後頭結節とも云ふが産婆學では略して後頭結節と云ふて居る。

#### (二)小横徑

大横徑 人によつては大顛門の前端迄又は後端迄と云ふて居る。

#### (三)大斜徑

大斜徑(頭後頭徑)顛部先端と小顛門迄、或は顛部先端と後頭結節迄と云ふ人もある。

小横徑丈けを先づ假に七仙米と記憶すると

小横	……七
大横及小斜	……九
前後	……一三
大斜	……一三

の様に一つ置きの数(奇数)故記憶し易い。

(六) 水平周圍(前後徑周圍)

前後徑周圍は前後徑の約三倍と記憶したらよい。

三 小斜徑周圍は……三十二仙米(前後徑周圍より一仙少ない)

大斜徑周圍は……四十二仙米(小斜徑周圍より十仙多い)

書取

「ぼうがふ」「かんぼう」「くわんじやうほうがふ」「しんもん」「しやけい」「きより」

政府試験問題

○初生兒の頭蓋を構成する骨並に縫合及顳門の名稱を記せ

(北海道大正七、四)

○初生兒頭蓋の各徑線を記せ

(山形大正七、四)

○初生兒兒頭に就て

(宮城大正七、四)

○成熟胎兒の頭蓋に就いて

(東京大正九、四)

初聲に命拾ふた思ひなり  
三人男ならばを繰り返し

うた子  
助産婆





肩胛周圍が頭圍よりも小さい時は早熟と見てよい。抑、胎兒月數の早い程、頭は全身に比べて大きなもので、發育するに従ひ兒頭は全身に比べて漸次小くなるものである。例へば妊娠第三ヶ月の兒頭の長さは全身長の三分の一だが若し此割合の儘で發育した成熟胎兒があるとしたら、それはをろしい巨頭であらう。然るに實際は軀幹の發育は兒頭よりも早いから肩胛周圍は未熟兒では兒頭よりも小さかつたものが成熟兒となると兒頭よりも大きくなるか或は少くも之と同等になるのである。

(五) 皮膚 淡紅色は蔷薇紅色と云ふてもよい。毳毛は一名嫩毛とも稱んでゐる。胎脂のある皺襞とは腋窩又は鼠蹊部等を云のである。成熟兒の趾の爪は必しも趾端を超えてない。

(六) 成熟兒及早熟兒にては瞳孔が完全に開いてゐるが、未熟兒では薄い膜で被はれてゐる。

耳 成熟兒の耳殻は頭蓋骨より離れ居るが早熟兒では密接して居る。

(七) 臍輪 臍は妊娠月數の早い程耻骨接合に近く成熟兒となると中央に来て生後

再び耻骨接合に近くなるのである。

(八) 外陰部 翠丸は初め腹の中に在つて、漸次に下降し妊娠第七ヶ月月中に鼠蹊管を通り、第八ヶ月にては既に陰囊中に入るが尙上の方に在る。

大陰唇の發達するのは内部に脂肪が多くなるからである。

## 二 生活現象による區別

胎便一名胎糞は、前卷解剖學中消化器の條下(四十七頁)で述べた。又追つて初生兒狀態の中にも再び述べよう。

## 三 胎兒附屬物による區別

其大さ太さに依つて胎兒發育の程度を大體定める事が出来るが、無論確かではなし。以上の諸點の中で其一二つを缺いても大體を見て成熟か否かを區別出来る。

書取

「しかく」「びよく」「ていさきふ」「くわつぱつ」  
誤り易き字。

哺乳、介補。計測、側臥。成熟、塾生。

政府試験問題

○成熟児の徴候

○同上

○同上

○同上

○未熟児と早熟児との區別

○未熟児の徴候

○未熟児とは何ぞ其徴候

○成熟胎児に就て知れる處を記せ

(東京大正八、十)(福岡大正四、十)

(山梨大正五、十)

(岡山大正七、四)

(大阪大正七、四)

(千葉大正四、十)

(静岡大正六、四)

(和歌山大正五、四)

(山梨大正八、十)

月 日 ( 曜日 )

復 習

42、成熟児の身長及體量如何。

43、成熟児の肩胛周圍と頭圍との比較を述べよ。

講 義

(教科書一八三頁——一八六頁)

第四節 胎勢、胎位、胎向

一 胎勢(胎兒體勢)又は胎狀(胎兒體狀)

胎兒身體各部分相互の關係とは胎兒の姿勢を云ふのである。  
正規の胎勢は教科書に示す通りだが只前膊及下腿は運動し易いから、左右

或は平行したり或は交叉したりする事がある而も何れも正規胎勢とするのである。

頤部が胸部から離れ、上肢又は下肢が伸びるのは何れも異常胎勢である。

正規胎勢を取る理由  
(一) 初め胎芽が其腹面を以て卵黄囊に對せし頃から、既に圓い輪の一節に相當する様な彎曲をなし、其まゝ分娩まで繼續するものであつて、これが子宮内の正規胎勢の根源である。(第八十四及八十五圖参照)

(二) それ故に妊娠初期に羊水が比較的多くて運動が自在な時でも此胎勢を取つて居て、妊娠末期に近づき羊水量が比較的少くなると、子宮壁壓迫の爲めに此本來の胎勢が愈々著明となるのである。

(三) 殊に胎兒の胸腔には肺臓に空氣がなく腹部には胃腸の内容物が極僅かであるから身體の前屈が一層容易くなるのである。

(四) 正規胎勢の利益は次の四通りである。  
一) 子宮腔の正規形狀に最もよく適應し、且つ場所を占る事が最も少ない事。

(二) 此胎勢を取れば後頭が先進し、従つて最小の頭圍で分娩出来る事。

(三) 軀幹及四肢の筋肉の運動が少く、従つて母體に強い運動を感ぜしめない事  
(四) 動物が冬眠をする時同様の姿勢を取つて體温の消失を防ぐ様に、正規の胎勢を取れば胎兒の體温の放散を少くし得る事。

二 胎位(胎兒體位)

子宮長軸(子宮縱軸)とは、子宮底の中央より子宮外口に至る直線を云ふのである  
分娩百回中凡そ九十九回は縦位で就中九十六回は頭位、三回は骨盤端位である。

然るに妊娠半期頃には骨盤端位も尠くない。而もこれは末期迄には多くは自然に頭位に變ずるものでそれを俗に「兒がへり」と云ふて居る。

時としては妊娠末期又稀には分娩中に自然に胎位を變へる事もある。  
△ 下向部とは例へば頭位にては兒頭である、骨盤端位にては骨盤端である。

或る場合には下向部中最も深く骨盤内に入つた部分を狭意に先進部と稱する事もある。例へば頭位にて後頭が最も先に進んだ時其後頭を先進部と云ふ事がある。(此の如き位置を後頭位と云ふて後に詳しく説く)

▲頭位の多い理由 妊娠初期に羊水が比較的多い時は、何の胎位を取るも自由だが、妊娠末期に近づくに従つて其空間が漸く狭小となるから胎児は最も窮屈でない位置を占めようとする。此窮屈を感じない位置は、子宮腔の卵圓形と正規胎勢の卵圓形とが丁度一致した時である。而して此卵圓形が一致するのは見頭が下向した時でなければならぬ。

△それ故に若し胎児が他の位置を取れば、子宮壁が胎児を壓迫し胎児は其刺戟の爲めに反動を起して最も安樂で便利な位置を占むる迄即ち頭位となる迄運動するものである。

△反之子宮腔の形態又は胎児の形態に異常があれば假令頭位を取つても以上の卵圓形が一致し得ないから頭位以外の位置を惹起し易いのである。例へば子宮の畸形、同位置異常、同腫瘍、前置胎盤、脳水腫、半頭兒等の場合には骨盤端位とか又は横位等を起し易いのである。

△尙又羊水過多又は子宮壁弛緩の場合には其居所が比較的自由であるから必ずしも頭位を取らないで往々位置異常を來すのである。

三 胎向 (胎兒體向)

例へば第一胎向の頭位を畧して第一頭位と稱してもよい。

第一頭位第一分類は…兒背左前 第二頭位第一分類は…兒背右前

第一頭位第二分類は…兒背左後 第二頭位第二分類は…兒背右後

後頭位にて第一胎向と第二胎向とは二と一の割合である。(例へば九十六人の

頭位分娩中凡そ六十四人は第一胎向で凡そ三十二人は第二胎向である。)

後頭位以外の頭位は、第一胎向よりも第二胎向にて分娩するのが多い。

胎向は分娩の難易に影響はない。

▲産婆が妊婦を診察し素人に向ひて「おなりがよいと云ふのは胎勢に異常のないのを云ひ「あすまひ」がよいと云ふは胎位に異常のないのを云ふのである。

誤り易き字

胎勢、火熱、成熟、姿勢、産婆、胎芽、齒牙、

政府試験問題

◎胎勢、胎位、胎向とは何ぞや、

(神奈川大正元、十)

- ◎ 同上
- ◎ 胎位胎向を記せ
- ◎ 胎位區向に就て記せ
- ◎ 胎勢に就て
- ◎ 胎兒の體位、體向、體勢を明記せよ

(東京大正六、四)  
 (東京大正五、四)  
 (山口大正七、四)  
 (埼玉大正七、十)  
 (茨城大正八、十)

人間の子を人間に育てかね  
 親は齋子は鷹孫は蠶なり  
 いつ重くなるとも知らず膝の上  
 乳に當る齒をあげさせて數を見る  
 青々と四五日はよし乳母の里

月 日 (曜日)

復習

- 44 胎勢胎位胎向の定義を述べよ。
- 45 第一頭位第二分類の兒背の方向を問ふ。
- 46 第二骨盤端位第一分類の兒背の方向を問ふ。
- 47 第二横位第一分類の兒頭及兒背の方向を問ふ。

臨時試驗 (第一回)

- (一) 胎盤の構造及機能を述べよ。
- (二) 兒頭徑線及顙門の名稱を問ふ。

講義

(教科書第一八七頁——一九一頁)

### 第五節 胎兒の營養及血行

一 交流作用  
 丁度種子を上の上に蒔いた時、其最初は土中の水分が内部に滲込みて之を養ひ、次第に芽を出し根を生ずると同様に見てもよい。此の如くしみ込むのは交流作用である。

#### 二 卵黄囊血行

鳥類の様な卵生動物では其孵化る迄此卵黄囊血行が作用するのである。

種子が芽を發す時に見る肉の厚い二枚の葉の如きもの「あさがほ」等の種子にては胚乳と云ひ「えんどう」類の種子にては子葉と云ふものは、其芽や根の養料となるものであつて恰も此卵黄囊に相當するのである。(第八十四圖)

#### 三 脈絡膜血行 (尿囊血行)

第二週の終りの頃暫時は卵黄囊血行のある上に脈絡膜血行が初まつて兩方一絡にあるが、總て卵黄囊血行は消滅し、脈絡膜血行だけ益々盛となつて遂に妊娠

第三ヶ月になつて胎盤が形成せらるゝと其儘胎盤血行となるのである。

#### 四 胎盤血行 (胎兒血液循環)

臍靜脈が肝臓の下面に來りて肝臓に入るものに二つある。其一つは直接に肝臓に入つて毛細管となり、他の一つは門脈と合して肝臓に入つて毛細管となるのである。

肝靜脈は肝臓の毛細管より集つて來た靜脈管である。

卵圓孔は左右兩心房の境壁に在る卵圓形の孔で生後數ヶ月の後に全く閉鎖されるのである。

下大靜脈から右房に注いだ血液が主として卵圓孔を通過して左房に入り、又上大靜脈から右房に入った血液が主として三尖瓣孔を通過して右室に入るのは、一つは其血流の勢が然らしむるのである尚一つは其兩血流の間にオイスタキ

氏瓣が介在するからである。然し此瓣は戸扉の様に完全に境しないで衝立の如くに不完全に境するのであるから兩方の血流の一小部分は互に他の血流に混合するのである。

第一編 妊娠の狀態

▲胎兒血行と大人血行との差異

胎兒血行

- (1) 臍靜脈及臍動脈あり。
- (2) アランチニス氏靜脈管あり。
- (3) 卵圓孔あり。
- (4) ボタハ氏管あり。
- (5) 肺循環は肺を養ふのみ。
- (6) 純動脈血は臍靜脈が肝臓に入る迄とアランチニス氏靜脈管とを通ずるのみ純靜脈血は下大靜脈系の一部及上大靜脈系、肺靜脈、門脈、肝靜脈等を通ず其他の血管を通ずるは混合血なり。

大人血行

- (1) なし。
- (2) なし。
- (3) なし。
- (4) なし。
- (5) 肺に於ける呼吸作用を營む。
- (6) 大循環にては動脈血は動脈管を通じ、靜脈血は靜脈管を通ず。肺循環は之に反す。

正規妊娠(第二編) 妊娠婦診察

第三編 妊娠婦攝生法

第二章 胎兒の狀態 第五節 胎兒の營養及血行

第一編 妊娠の狀態	第一章 胎兒附屬物の狀態	第一節 卵膜	スム
第二編 妊娠婦診察	第二章 胎兒の狀態	第二節 胎盤	スム
		第三節 臍帶	スム
		第四節 羊水	スム
	第一章 胎兒各月に於ける胎兒	第一節 妊娠各月に於ける胎兒	スム
		第二節 成熟兒の頭蓋	スム
		第三節 成熟兒と早熟兒との區別	スム
		第四節 胎勢胎位胎向	スム
		第五節 胎兒の營養及血行	スム
	第二章 妊娠婦生殖器及其附近の變化		明日
	第四章 妊娠婦全身の狀態		明後日

政府試験問題

- 胎兒の血液循環 (山梨大正九、四) (埼玉大正八、十) (埼玉大正四、十)
- 臍帶及胎兒血液循環 (埼玉大正六、十)
- 胎兒の血行に就て (大阪大正二、四)
- 胎兒は如何にして母體より營養を得るか (香川大正五、四)
- 胎兒血行と大人血行との區別を詳記せよ (和歌山大正七、四)
- 臍動脈に就て記せ (栃木大正七、四)
- 臍帶靜脈の經路及これを流通する血液の性状を問ふ (福島大正七、四)

貧者は食を永め富者は食欲を求む  
 長者の美食は貧者の涙  
 長者の萬燈貧者の一燈

丁 株  
 希 國  
 日 本

月 日 ( 曜日 )

復 習

84、臍靜脈及臍動脈は各何本なりや又之を通ずる血液の種類を問ふ。

講 義

(教科書一九一頁——二〇〇頁)

第三章 妊婦生殖器(及其附近)の變化

第一節 生殖器(及其附近)の解剖的變化

鷲卵大とは鷲の卵の大きさ。手拳大とは拳の大きさ。  
 第一ヶ月の子宮は常時と同じく鷲卵大である。第二ヶ月以後は殊に其前後徑が

第三章 妊婦生殖器(及其附近)の變化 第一節 生殖器(及其附近)の解剖的變化



第一編 妊娠の狀態

増大する故球形になつてくる。  
 妊娠初期即卵子がまだ子宮腔を全く充さない間は子宮壁の厚さ及子宮の大きさ共に益々増加するのである。然るに卵子が子宮腔を充して後は卵子の増大の爲めに内部から被働的に押されて其爲めに増大して行く。此時は子宮壁自らは假令厚さを増しても伸展せらるゝから結極其厚さは増さないと同じになる。  
 子宮は元來前屈せるものだが妊娠初期に於ては殊更に強く前屈して居る。  
 子宮腔の形が卵圓形と變ずる頃には、子宮底 殊に著しく發育して輸卵管角を越えて遙かに上の方に膨隆して行く。  
 數回の經産婦は子宮壁が弛緩してゐるから胎兒の位置に従つて形が變じ易いのである。  
 妊娠子宮の位置は極めて移動し易いから、妊婦の右側臥により右に倒れて子宮頸が左に昇る。左側臥によりて反對になる。  
 子宮筋纖維の肥大増殖と共に間質結締織も肥大増殖する。間質結締織とは筋纖維の間の結締織であつて筋纖維を連結するものである。筋纖維を煉瓦に譬ふれば結締織は「セメント」の様なものである。肥大とは纖維自らの増大するので増殖とは數の増す事を云ふのである。  
 搗き立ての餅の如き軟さを「粉泥狀軟」と云ふ事がある。粉泥狀とは小麦粉などを水にて溶いて捏つた軟度である。藍赤色を「リビッド」と云ふてもよい。  
 △妊娠時子宮の變化と云ふ問題に對しては第一章胎兒附屬物中に述べた脱落膜の詳細を加へなければならぬ。  
 △子宮變化に就ては後に妊娠時期の診斷法又は初妊經産の鑑別の條下にて詳細を述べよう。

第三章 妊婦生殖器及其附近の變化 第一節 生殖器(及其附近)の解剖的變化

圓靱帯の肥厚の時其筋肉も増加する。  
 腔腔は妊娠後殊に其の後半期に於て擴大する。  
 妊娠時乳房の膨滿するのは (一)脂肪増加 (二)乳腺増加 (三)充血の三に歸するのである。妊娠線は教科書一九九頁に説明する。皮脂腺は第三十一圖にある。初乳とは僅かに白色に濁れる砂糖水の様な薄い液で顯微鏡にて見ると「初乳小體」がある、詳細は正規産褥にて述べよう。

### 第二節 生殖器機能の變化

一月經 既に希臘時代のアリストートル氏も妊娠中に月經のある場合があると述べた。近くチルト氏は妊娠百人中八人に月經を見たと云ふて居る。南洋ニユ  
 一ギニア・ア・フイ・チイ諸島の或人種は妊娠中に毎月月經を見ると云ふ事である。又  
 或婦人は平素無月經で妊娠すると却て正調の月經を見る様になつたと云ふ事である。或は又一家族四名の婦人が何れも妊娠第六ヶ月迄正調の月經を見たとき  
 余の診た第四回經産婦は毎回妊娠第三・五ヶ月迄正調の月經を見たとき  
 見分が平常よりも少ないのである。  
 二排卵 或學者は妊婦の五「プロセント」に排卵があると云ふが反對者もある。  
 三妊娠子宮の收縮性 は妊娠末期に至る程増して来る。

### 第三節 子宮の膨大による影響及腹部の變化

一子宮膨大の影響 尿意頻數とは度々尿意を催すのを云ふのである。妊娠三、四  
 ケ月及末期に於て著しい。靜脈瘤とは怒張した靜脈が瘤の様に集つたのを云ふ  
 のである。知覺異常とは「しびれる」感等々を云ふのである。

二腹部の變化 妊娠以外の時又は男子にても皮膚が急激に延長せられた時は妊  
 娠線と同様の線を生ずることがある。

子宮底の高さは妊娠六ヶ月に於て臍の高さに達し、七ヶ月に於て臍窩から二  
 三指横徑上方に達する。即六ヶ月迄は子宮が臍より下方に在るが七ヶ月に至れ  
 ば臍を越えて上昇し後から臍を押し出して臍窩を淺くすると記憶してもよい。  
 腹部正中線の着色は白色人種に於ては妊娠の診斷上價值あるけれど、本邦人に  
 は平素にもあつて殊に男子にもある故診斷上の價值は少ない。

#### 書取

「けいらん」「がらん」「しゆけん」「ばうりう」「らんせきしよく」「ぼつさ」「ねうい  
 ひんさく」「べんび」「じやうみやくりう」「えんちやう」「ひはく」  
 誤り易き字

第一編 妊娠の状態

妊娠線、乳腺。刺戟、激烈、劇薬。

政府試験問題

○妊娠時母體の變化

答。特別の説明なき限りは生殖器及全身の變化を共に記すべし。

(埼玉大正四、十)

○妊婦生殖器に現はるゝ變化

答。此第一節の外に、後に述ぶる「妊娠徴候」初妊經産の區別及「妊娠月數決定

(和歌山大正五、四)

法」の生殖器變化をも附記すべし。

○妊娠線初乳眞結合線矢狀縫合を説明せよ

(栃木大正五、四)

嫁も嫁姑も姑も十月  
孕んだで入齒して居る四十妻

月 日 ( 曜日 )

復 習

49 子宮膨大の影響を述べよ。

50 妊娠線の新舊の別を問ふ。

講 義

(教科書二〇一頁—二〇五頁)

第四章 妊婦全身に起る變化

妊婦全身の變化、産婦全身の變化、褥婦全身の状態、初生兒全身の状態等は皆次の順序で講義するから其積で記憶するとよい。

- 一 體重 (又は全身一般の概況)。
- 二 體溫。
- 三 脈膊 (又は血行器)。
- 四 呼吸 (又は呼吸器)。
- 五 消化器 — 糞便。
- 六 泌尿器 — 尿。
- 七 皮膚 — 汗。
- 八 神經系統。

第四章 妊婦全身に起る變化

以上の中、體重と體温とは體の字を聯想して記憶し、體温、脈搏、呼吸は體温表に共に記すべき一纏のものとして覚え、呼吸器と云へば解剖上並んである消化器を思ひ出し、消化器中には食物及糞便に關する事を考へ、糞便と云へば尿を聯想し、尿と云へば之に類する汗從つて皮膚を思ひ出し、皮膚の次には發生上關係ある神経系があると記憶するとよい。尙最後には特別の項を附加するところがある。即ち妊婦にては、九姿勢を附加してある。

一 體重

體重の増加は妊娠末期に著しい。妊娠第十ヶ月は僅か一ヶ月で一七七七瓦も増すのである。

$$\begin{matrix} \text{(卵子)} & + & \text{(生殖器)} & + & \text{(母體)} \\ 1000 & + & 150 & + & 627 \\ & & & = & 1777 \text{瓦} \end{matrix}$$

右の數字は參考の爲め載せたもの故記憶するに及ばなす。

二 體温

子宮内の體温は、胎兒生存中は腔内よりも二—三分高す。

三 血行器

心臟の大きくなるのは作業性肥大の結果である。鍛冶工の腕が太く、車夫の脚が太いなども作業性肥大であつて、何れも働いた結果大きくなるのである。妊婦の心臟も常時より多く働く故肥大するのである。

四 呼吸器

血とは「はなぢ」のことである。聲音粗體とは聲のわるくなることで聲樂家等は困るのである。

俗に「肩にて呼吸する」と云ふのは呼吸短促の意味で九ヶ月に於て甚しく十月月になると子宮の下降する爲めに幾分樂になるのである。

五 消化器

齶齒は「むしば」悪心とは「むねの悪いこと」である、妊婦は例へば早朝空腹時に食膳に向ひ突然に嘔吐する事がある。然るに忽ちに癒つて再び食事を續け得るから營養障礙を來す事もなく、妊娠の中期以後自然に治癒してしまふ。此様子のを妊娠嘔吐症と云つて正規に屬すべきものとして居る。別に悪性妊娠嘔吐

第一編 妊娠の狀態

吐症と云ふのがある。それは異常妊娠の講義に述べよう。便秘は單に直腸の壓迫に因するのみでなく骨盤内血行障礙の結果としても來るのである。

六 泌尿器

妊娠中は多くは尿量が増加するのである。

七 皮膚

子宮褐色斑は雀斑の様なものである、顔面の着色は分娩後消失するが其他の部は尙幾分か残るのである。

八 神経系統

憂鬱となつたり、又は快活となつたりするのは妊婦の境遇の影響を被むる事も尠くない。例へば永い間子の無かつた人が妊娠した時は喜びの餘り快活となつたり、之に反し分娩後の子供の處置を苦慮する者は憂鬱に傾き易いのである、又分娩の困難を豫想して恐怖心を起すものもある。

以上精神の變狀は多くは一過性(一時的)のものである。

書 取

「げんらん」「じつげつ」「うし」「しこう」(食物の)「をしん」「あうと」「はんこん」「ゆらうつ」「くわいくわつ」

政府試験問題

○妊婦全身に於ける變化

(埼玉大正八、四) (埼玉大正五、四)

○同上

(埼玉大正六、四)

○同上

(埼玉大正六、十)

○妊娠子宮各月の大さ及子宮膨大の爲めに起る妊婦全身の變化

(山梨大正五、四)

○妊娠各月の子宮の大さについて

(兵庫大正二、四)

答。各月の子宮の大さは後に述ぶる「妊娠時期決定法」の條下をも参照すべし。

○生殖器以外の妊娠徴候

(千葉大正三、十)

答。「妊婦全身に於ける變化」の他に、「胎兒生活現象により起る徴候」をも記すべし。詳細は後日「妊娠の徴候」の條下に述べよ。

第四章 妊婦全身に起る變化

月 日 ( 曜日 )

復 習

- 51 妊婦全身に起る變化に就て述べべき各條頂の題名を擧げよ。
- 52 大人の平均體溫及妊婦の平均體溫を問ふ。
- 53 妊婦皮膚に着色する部位を問ふ。
- 54 妊娠線の現はるゝ部位を問ふ。

講 義

(教科書二〇六—頁二〇八頁)

第貳編 妊婦診察

甲部	診察の方法	第一章	問診
	第二章	外診	第一節 視診
	第三章	内診	第二節 觸診
			第三節 聽診

乙部 診察の結果決定すべき事項 (即診斷)

(此乙部にては、甲部の方法を應用して、例へば妊娠の有無又は妊娠月數等を診斷する方法を述ぶるのである。)

甲部 診察の方法

第一章 問診

住所姓名年齢、其他問診すべき順序項目は教科書に示す通りだが、開業後實際の診察に當りて外診に先立ちて先づ几帳面に此通り全部を問診すると、まるで巡査の戸籍調べの様で調子の悪いものである。殊に「初經の年月は？」「持續は？」「既往の産褥状態は？」「最終月經は？」等と問ふと、相手によつては初經、持續等の意味が判らないで返答に苦しむ事も尠くない。故に學習時又は帳簿に記載するには教科書に掲げた順に従ふがよいけれども、實地に當つては先づ一二の要件を問診し直ぐ外診に取かかり其間に調子よく平易の言葉で問診の項目の全部を問ひ盡すのが宜い。然れど以上の項目を順よく憶えて居らないと其要項中の何れかを問ひ落す虞があるから、よく順をつけて覺える必要がある。例へば。住所姓名を尋ねて後、最終月經の日を問ひ次で其持續日數と分量を尋ね、從つて平

常月經の順、不順、持續日數、分量、月經痛等をも尋ね又初經の年月をも問ふがよい。月經の話の次には「月經を見てから後に何か重い病氣に罹らせましたか」と聞き、病氣の話が出でたら小兒期の疾病又は近親者の健否等をも尋ねるがよい。親近者とは親兄弟等近き血族を云つて、これ等に例へば結核あらば妊婦にも注意を拂ねばならぬ。初經後の病氣の中殊に婦人科病等が分娩に大なる關係を有するもの故其病氣が現在も尙存在すれば醫師に診せる等相當の處置を要するのである。醫師に診せざる迄も流産になる事はないか分娩時に陣痛異常の來る事はなにか或は胎兒通過障礙は無か等を豫てより注意する事が出来る。小兒期と云のは初經來潮迄の間で殊に誕生の前後に立ち歩みの出來なかつたもの又は小兒期に虛弱であつたものは骨盤等に異常があつて分娩障礙を來す事も有るからこれをも質さねばならぬ。尤も里の母親の附添へる時はそれに就いて問ふがよろしい。

今回の妊娠に關する事柄は診察中隨意の時に尋ねるも調子の上に差支はない。夫に次で既往の妊娠分娩産褥の経過をも糺すとよい。無論乳房腹部等の状態を診て經産婦と診斷した時に尋ねべき事で、初産婦に對して「前のお産は……」等と問ふと忽ちに信用を失ふてしまふ。凡て以前の経過を尋ねるに當り「此前のお産には變りはありませんでしたか」と問ふ時は實際は異常が有

たにも拘はらず「え、何ともありませんでした」と迂闊答ふる事がある、俗諺にも「咽元過れば熱さを忘る」と云ふて、前回の苦痛もその記憶に残らない事も尠くないから、其記憶を呼び起す様に上手に問ねばならぬ。例へば「此前の御妊娠中浮腫はありませんでしたか」、「お産の暇取れた爲に醫師を聘だ事はありませんでしたか」、「血脚氣はありませんでしたか」等とこちらより異常の事柄につき端緒を與ふれば「血脚氣はありませんでしたか」が始めての子を産んだ後熱を病みました」等と思ひ出して答ふる事もある。職業年齢などは問ふ機會を失すれば、世間話の中に尋ねてもよい。總て問診はあまり角立ちて質さず、問ふに落ちず語るに落ちる様にすることが巧者なのである。

## 第二章 外診

視診は眼にて診察し、觸診は手にて診察し、聽診には聽診器を用ひ、測診には卷尺骨盤計等を用ふるのである。

全身乳房にては視診、觸診を行ひ、腹部にては視診觸診の外聽診をも行ひ、骨盤にては視診の外骨盤計測をも行ふのである。時に又身長腹圍等を測る必要も

ある。凡て初學者は初めに視診を完全に行ひて後觸診に移るがよい。熟練するに及び視診と觸診を殆ど同時にすることが出来る。

## 第一節 全身の診察

身長又は全體の骨格の大きいものにも拘はらず骨盤の小さいものは分娩時に障礙多く、脊柱の曲れる者は骨盤も曲れる虞がある。營養不良の者は陣痛微弱の慮がある。

皮膚の状態は妊娠有無の診斷に必要なるばかりでなく、他の疾病の有無を定めるにも必要である。發疹とは「ふきでもの」を云ふ。皮膚は營養不良の時に乾燥し、發汗の多い時に濕潤して居る。

## 第二節 乳房の診察

乳房の形状及大いさは妊娠の有無及初妊經産の鑑別に必要である。皮膚の癢痕は以前乳腺炎のあつたのを想像し従て多くは經産婦なりと推察出来る。乳頭は



一見哺乳に不適當と見た時は之を刺戟して勃起せしめて後其適否を定めなければならぬ。

妊婦の乳腺は多少硬いが、際立ちて硬い硬結のある時は異常と思ふてよい

政府試験問題  
○問診の順序及項目を記せ

(埼玉大正二、四)

笑話 舊産婆

兩國川端で電車と軍鶏籠を積んだ荷車とが衝突した、籠は川中に落ち鳥は悲鳴を擧げる、人々アレヨ〜と云ふのみで手の下し様がなかつた、ト群集中よりヨボ〜の舊産婆があらはれ手にした杖で籠を引きよせ見る間に難なく引き上げた、見物の一人驚嘆して『あなたはお年に似ぬお力ですなと云へば産婆『ナニ私の商賣がとりあげです。』

月 日 ( 曜日 )

講 義

(教科書二〇九頁—二一七頁)

第三節 腹部の診察

診察前に排尿のみならず排便をもさせる事が出来れば尚よろしい。羽布圍其他軟か過ぎる布圍は身體が埋り込んで診察及び凡ての取扱に不便である。仰臥とは背を下にして臥る事で又背臥とも云ふ。兩下肢を軽く屈曲せしむるのは腹壁を弛緩せしめ以て觸診を容易ならしむる爲めである。

腹帯腰巻等は悉皆去り腹部を全く露出せしむるが宜い。陰部及下肢を被ふものは厚過ぎると聽診等の際邪魔となつて不便である。診察時に手を温むるのは温湯中ですると可い。勿論自身の手の温い時は其必要はない。若し冷い手を以て診察すると妊婦に不快を感ぜしむるのみでなく、腹壁の緊張及子宮壁の收縮を

起し觸診を困難ならしむものである。  
 妊婦の右側又は左側何れに坐するも勝手だが、醫師が診察、手術、解剖等をなすには右側に立つのが通則である。觸診の際は手を靜かに運用するが宜い。強く壓迫すると所見（見やうとする事柄）が不明となるのみでなく内診等の時は損傷を起さしむる事がある。

### 第一 視診

- 一 腹部膨隆の度は子宮の大小のみでなく腹壁脂肪の多少、腸管内瓦斯又は腹腔内腫瘍の存否等によつても左右せらるゝのである。形状は普通子宮の形状に從て變化するのである。凡て經産婦の腹壁及子宮壁は弛緩して居るから胎兒の位置の如何によつて其形状も容易に變るのである。
- 二 臍窩 臍窩は七ヶ月頃より漸く淺くなり末期に平坦となる之を「臍窩消失」と云ふて居る或は却つて突出する事もある。
- 三 正中線の着色 正中線の着色の度は本邦人に於ては妊娠の診斷上著しい價

値はないが参考として見るがよい。  
 四 妊娠線 新妊娠線は經産婦に於ては初妊婦程に赤褐色等の色が著しくないから見通し易い。側腹等々を注意してすかして見るがよい。  
 五 胎動 時に小隆起として突出し又は波のうねるが様に運動するのが見える。

### 第二 觸診

觸診の際第一段、第二段、第三段、第四段と順に上方より下方に向つて兩手を運用し、本來は胎兒を診るべきものだが、實際には各段毎に一、腹壁、二、子宮（卵巢、輸卵管、圓靱帶）三、胎盤、四、羊水、五、胎兒の順に外層より中心に向つて注意を及ぼして綿密にこれを觀察せねばならぬ。

#### 第一段の方法

一 心窩部 は八ヶ月に於て緊張し十ヶ月に於て弛緩するのが常だが必しもそう明らかに區別出来ないこともある。  
 二 子宮底 の高さは耻骨接合より何指横徑上方、臍窩より何指横徑上方、又は

第二編 妊婦診察

下方、劍狀突起(胸骨下端の突起)より何指横徑下方、臍窩と耻骨接合間の中央、又は臍窩と劍狀突起間の中央等の語で云ひ表はすのである。

三 胎児部分 子宮底部には妊娠末期に通常臀部を觸れ時に兒頭を觸れる。妊娠の半には屢々兒頭を觸れる。若し子宮底部に兒頭若くは臀部を觸れない時は第二段の方法の時に子宮の兩側に兒頭又は臀部を觸るゝのが常である。

尙胎児部分の大きさが知れた時は胎児全身の大きさを想像しなければならぬ。

第二段の方法

一 腹壁は初妊婦にては緊張し且つ厚く經産婦にては弛緩し且つ薄い。其他腹壁脂肪の多きものは厚く、子宮過大(羊水過多症等)の時は緊張して居る、腹壁甚しく弛緩し且つ薄い時は圓靱帯を觸る事もある。左右圓靱帯が上方に向つて接近交叉の方向(八字形)に走る時は胎盤は子宮後面に附着せるものと想像してよい、これに反し上方に向つて互に相離れ子宮後面に陰れて遂に觸れなくなる時は胎盤は子宮前面に在るものと推定出来る。此圓靱帯を觸れて小部分と誤つてはならぬ。

二 子宮の大きさは妊娠月數、胎児の大小及數、羊水の多少等によつて異なる。子宮の形狀は妊娠中期には球形で末期には通常倒卵圓形—縱橢圓形となる。これは縦位の形である。横位では横橢圓形、少くも球形で、羊水過多症も球形である。其他子宮の畸形例へば双角子宮の時は子宮底が二裂して居るのがわかる。診察時に子宮の收縮著しく起るのは通常妊娠月數の進んだものと思つてよい。

三 羊水量の多い時は妊娠月數に比して子宮が大きくて、子宮壁緊張し、胎児部分を觸れ難い(其他詳細は羊水過多症の條下に述べよう)

四 胎児部分 第一縦位にては兒背は左、小部分は右に觸れ第二縦位にては之に反する。第一横位にては兒頭を左に臀部を右に觸れ第二横位に於ては之に反するのである。

▲小部分の在る側は兒背の在る側よりも一般に抵抗が弱くて其弱い抵抗の中に小部分が小さい硬い棒切様のものとして觸れる。此小部分は時々自ら動くのみならず産婆が自由に之を動して見ることが出来る。

第三段の方法

第二章 外診 第三節 腹部の診察

胎兒下向部の尙未だ骨盤内に深く進入しない時に診る方法である。産婆の顔面の方向は第二段の儘にてよい。此場合妊婦の右側に坐つて居る時は産婆の右手を用ふる事となる。

兒頭が浮球の感を呈するのは頸に弾力性があるからである。其上兒頭は硬いから益々明瞭にこれを感じ得るのである。

第四段の方法

通常胎兒下向部が既に骨盤内に進入した時に診る方法である。或は然らずとも第三段の方法を一層確むるのに用ふるのである。

一 下向部は「何」か。例へば兒頭か臀部か、之は既に第三段の法で認め得たのだが尙それを確定するのである。

二 下向部は「如何様」に骨盤内に進入したか。

若し頤部が胸部から著しく離るゝ時は頂部は平坦でなくて溝をなして居る。

三 下向部は「何處迄」下降したか。

此際第三段の法にて既に定め得た下向部の移動又は固定を尙一層確定出来る。

矢入とは矢り込んだのを云ふ。

下向部が骨盤内に深く入つた時は入口より上に於て兒頭を觸れ得ないで、肩胛を觸れて兒頭と誤る事があるから注意せねばならぬ。

此第四段の方法を深い注意と熟練とを以て行へば内診をせずとも妊娠中に於ける胎兒下向部の状態及分娩時に於ける胎兒娩出の経過をも知る事が出来る。

四 下向部の「大さ」及「硬さ」

下向部は通常兒頭であつて其硬い兒頭と腹壁との間に一部分軟い物質即ち胎盤が介在せるか否かにも注意するとよい。若し此の様な低い位置に胎盤の有る時は前置胎盤と云ふて異常に屬するものである。

書取

「はらねう」「げふが」「ろしゆつ」「ちちやう」「こうはく」「ししん」「しよくしん」「ちやうしん」「いどう」「かんにふ、こてう」「ふきゆうのかん」「だんりよくせいいていこう」

政府試験問題

第二編 妊婦診察

○ 妊婦外診に何段の方法ありや各段に就て記せ (秋田大正七、四)  
 ○ 兒頭骨盤入口に嵌入せるや否やを如何にして知るや (千葉大正六、四)

貞婦は最も真正なる最も愛情ある朋友なり  
 人は結婚後一日に七年老けたるを知る  
 夫は妻の天なり  
 閏年は杓子も孕む  
 三月四月は袖でも陰す  
 死人の夢はお産の前兆

サ  
グ  
キ  
ジ  
ベ  
ー  
コ  
ン  
禮  
記  
俚  
語  
俚  
語  
俚  
語

月 日 ( 曜日 )

復 習

- 55 浮球の感とは何ぞ。
- 56 兒背と小部分との區別。
- 57 兒頭と臀部との區別。

講 義

(教科書二一〇頁—二二三頁)

第三 聽 診

一 聽診の方法  
 聽診時に自ら體を振り無理な姿勢をとつてはならぬ、腰を落付け身體を樂にし  
 て聴くがよい。

第二章 外診 第三節 腹部の診察

聽診器の中で妊産婦の診察に適當なのはトラウベ氏桿狀聽診器である。就中硬ゴム製差換形（木下博士の推奨せしもの）が宜いと思ふ。只硬ゴム製は取扱が粗暴だと破損し易い。水牛製は乾燥が不充分だと使用中に彎曲する缺點がある。象牙製は價貴くて却て重い。又上下兩端に軟護膜を附けたフリューデンタル氏桿狀聽診器と云ふのがある、皮膚との密接の具合が宜い。安達式桿狀聽診器は更に之れを差換自由にしたものである。桐博士考案の桿狀聽診器は喇叭形である。桿狀聽診器は其幅の廣い端の外縁を耳殼の外縁に合せて耳に貼ると耳の孔と聽診器の孔とが殆ど相對する様に至る。聽診器の幅の狭い端は妊産婦の腹壁上に貼るので其際腹壁に垂直に立つ様にせねばならぬ。又疼痛を訴へしむる程強く壓迫してはならない。

二 兩耳聽診器は、醫師が一般に用ふる二本の長い「ごむ管」を有する聽診器である。就中榎本式兩耳聽診器は妊婦の腹壁上に安置するに便である。

甲 胎兒より發生するもの

(一) 胎兒心音

固體は液體よりも音を傳導し易いから、胎兒胸廓と子宮壁と接近せる場所には、羊水によりて隔てられて居る場所よりも心音の傳導が佳良である。通常の胎勢ならば兒背の在る方の側に心音を最も著明に聴取し得るのである。これは兒背が他の部分よりも子宮壁に最も接近して居る故である。例へば第一後頭位では心音は左腹部に於て著明であつて而も胸廓は下腹部に在るから左下腹部に於て聴取できる就中最も著明に聴ゆる位置は臍窩と左腸骨前上棘とを結び付けた線即ち左臍棘線の中央である。これに反し顔面位又は前額位では、前胸部が子宮壁に最も接近して居る故胸の在る方の側に心音を最も著明に聴取し得るのである。例へば第二顔面位にては下腹部の左側に於て最も著明である。(第一〇二圖参照)

各胎位に於ける心音を聴取する場所は第一〇三及第一〇四圖を見れば判る。(同一

胎向の後頭位又は骨盤端位にては、背後位の心音著明聴取點は背前位よりも上方にある。

心音數一分間に百以下或は百六十以上の時は胎兒に異常があると思ふてよ。陣痛發作時には心音數が百以下になる事もあるがこれは一時的であるから異常ではない。

通常は五秒毎に數へ五秒を三つ連續して云ひ表はすのである。例へば十一、十一、十二、と云ふのは初めの五秒は十一中の五秒も十一終の五秒は十二であるのである。これは十五秒には三十四で一分間には其四倍百三十六となる。凡て五秒の數が十か十一か若しくは十二ならば正規だが九以下或は十三以上となる

と異常と思ふてよ。女兒の平均心音數は男兒のよりも多いから、心音數の多いものは恐らく女兒ならんと考へてもよいが、或男兒には心音數多く又或女兒には心音數の少ないのもあるから此區別法は確ではない。母體の心臓搏動數の甚だ多い時は、其搏動の響き又は大動脈音を心音と誤る

事もある。故に胎兒心音を聽く前には常に必ず母體脈搏數を算へ、其數の胎兒心音數に近い時は特に注意を拂はねばならぬ。

心音は心臓の收縮及擴張時に起る瓣膜閉並に心臓筋肉運動の音である。而して其收縮時と擴張時との音色が異ふから一搏動の音は二種の音色即ち複音として聞ゆるのである。例へば

「トク」「トク」「トク」と云ふ様に聞ゆるのである。

二、臍帶雜音

臍帶雜音は百人中十五人に聽く事出來ると云ふ人もある。他の學者は尙一層稀だと云ふて居る。

臍帶雜音は胎兒心音と同時に聞ゆるもの故數もそれと等しいのである。

絲鳴とは「ズー」「ズー」「ズー」と云ふ様な音である。臍帶血管壓迫の原因は次の如きものである。

- イ、臍帶の纏絡
- ロ、臍帶の眞結節
- ハ、臍帶の強き捻轉
- ニ、羊水過少

(三) 胎動雑音

妊婦自ら胎動を感じるは凡五ヶ月の末である。經産婦は一、二週早く之れを自覚し得るのである。

衝突様の短音とは、「ドン」又は「ドン」と云ふ様な音で其運動が桿狀聽診器を傳はりて耳に觸知出来る。(鼓膜に響くのは別に、皮膚に感ずるのである)

▲胎兒の運動に次の種類がある。

- (イ) 小部分の運動 妊娠の初期には羊水が比較的少量故胎兒周囲の空間も多く従つて運動も自由な筈だが、此頃には未だ胎動を營まない、四ヶ月頃より胎動を始め爾後漸く活撥となるのだが、羊水は比較的少なくなるから空間が狭く従つて踊る様な自由な運動は出来ない。(恰も吾人が懷中にて手を動かす様で)多くとも肘關節又は膝關節より先を動かすに過ぎない。此運動は徐々に移動する運動として視診出来る。
- (ロ) 背部筋肉の運動 生理的胎勢は背を前屈し居るのだが時々脊柱又は頸を伸す運動をする事がある、此運動は俄然痙攣的に來るのである。

第四節 骨盤の診察

(ハ) (ニ)

横隔膜痙攣 即ち吃逆の運動である。胎兒は子宮内で吃逆をなすのである。子宮内にて定期的に呼吸運動及羊水の嚥下運動をすると云ふ學者もある。(アールフェルド氏)

乙 母體より發するもの

(一)

大動脈音 母體心臟搏動と同時に従つて脈搏と同時に發する故數もこれらと等しい。

(二)

此大動脈音と同時に腹部大動脈の搏動を觸知する事も出来る。子宮雑音 これも亦母體の脈搏と同時に發するから數もこれらと等しい。(例へば母體脈搏が一分間に八十ならば子宮雑音も八十である。)

(三)

性質は「ザウ」「ザウ」と云ふ様である。胎兒以外に、例へば子宮筋腫等の時にも發生する事がある。腸管雑音 腸の蠕動により腸管内の瓦斯と液體とが動いて發する音である。



(第一卷中の骨盤及第六卷狭窄骨盤の條下を参照すべし)

### 第一 骨盤外計測法

一 目的 小骨盤腔の廣狹は分娩の難易に大なる關係を有するから其廣狹を推定する事は極めて必要であるが、生體にては之を測定し難いから止むを得ず只大骨盤の外徑と、時に小骨盤内徑中の對角結合線を計つて之により小骨盤の大小を推定するのである。

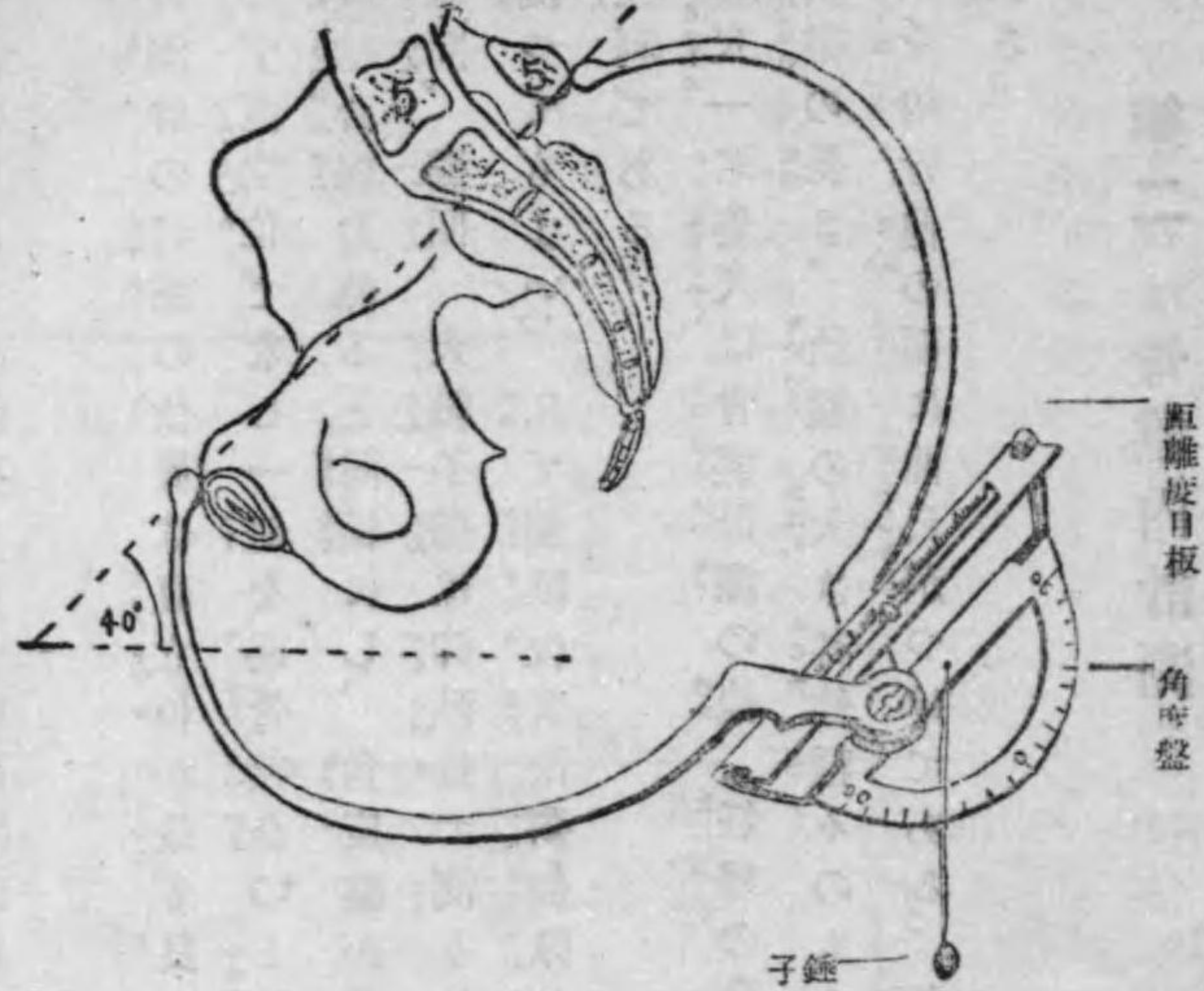
#### 二 計測の方法

(一) 骨盤計には種々ある。第一〇五及一〇七圖にあるのは最も簡單なもので一端に關節があつて、其近くに度目板がある。他端には各々一個の鈕があつて鈕の間は自由に開閉し、其の間の距離は直と度目板の上に仙米で現はれるのである。使用に先だつて常に兩鈕の間を接觸せしめて度目板の度目が〇なる事を確かめねばならぬ。

骨盤計には携帶に便なる様中途にて屈折し得るものもある。又骨盤の傾斜を測

第百九十圖

生體に於て傾斜骨盤計を計る状態



第二章 外診 第四節 骨盤の診察

る爲めに度目板に垂直に更に半圓形の角度盤を附し錘子を垂れたる線により角度を讀んで其傾斜の度を測り得るものもある。(第一一九圖)例へば兩鈕及骨盤計を水平位置に置く時は、其錘子の線は角度盤の中央〇度に來る。若し一鈕を固定し他鈕を上げ角度盤は垂直面上を動かし骨盤計を漸次に傾斜せしむると其傾斜の度に從つて錘子の線は其度を表はし、遂に骨盤計が全く鉛直位に來る時は錘子の線は角度盤の端に來て九十度を示す様になる。錘子を吊す線は二本で角度

盤を挟み此兩絲が接觸平行して居れば此角度盤が垂直面上に在る事になるのである。

骨盤計測時の妊婦の位置は直立位が最も良い。殊に骨盤傾斜の角度を測定するには必ず直立位でなし一鈕を恥骨接合の上縁に他鈕を第五腰椎棘状突起に當て恰も外結合線を測ると同様にし、角度盤が垂直面上に在る様にして測るのである。棘間、櫛間、大轉子間は仰臥位で測り外斜徑は斜側臥にて外直徑線は側臥にて測つてもよい。凡て側臥位又は斜側臥位にては産婆は妊婦の背部側に來るのが便利である。

(二) 帶尺一名巻尺は骨盤計測の他、妊婦の身長、腹圍、初生兒の頭圍、身長、肩胛周圍、臍帶の長さ、胎盤の大きさ其他種々のものを測るのに必要である。通常一面に仙米を附け他の面に曲尺がつけてある。其尺の全長は一米のものと二米のものがある。

### 第二 骨盤内計測

外計測の結果外結合線が著しく短い時は必ず對角結合線を測らねばならぬ。其法は内診の條下に述べよう。

書 取

「かんじやうちやうしんき」「のついでん」「しやうとつやう」「しめいやう」「あつぱく」「らいめいやう」「はうまつ」

第貳編 妊婦診察	甲 診察の方法	第一章 問診……………スム
	乙 診察の結果決定すべき事柄	第二章 外診
		第一章 全身診察……………スム
		第二章 乳房診察……………スム
		第三章 腹部診察……………スム
		第四章 骨盤診察……………スム
		第一視診……………スム
		第二觸診……………スム
		第三聽診……………スム
		明日……………スム
		明後日以降……………スム

政府試験問題

○妊婦外診法

○妊娠後半期に於て腹部に聴取する音及其發する理由を記せ

(東京數回)(東京大正八、四)

○胎兒より發する音に就て記せ

(埼玉大正二、四)

○妊娠十ヶ月に於ける各胎位の心音聴取の部を記せ

(茨城大正二、十)

答 第一〇三圖及第一〇四圖参照

(埼玉大正元、九)

横位にては臍窩の僅か下にて中央若くは兒頭の在る方向に少しく偏す。

○胎兒心音、子宮雑音、妊娠子宮、胎兒

以上は妊娠第何ヶ月頃より聴取若くは觸知し得べきや

(大阪大正三、十)

答 妊娠子宮を腹壁上より觸知し得べき時は四ヶ月以後とすべし。

○縦位の種類及其各位の心音の聴取部位を列記せよ

(香川大正五、四)

答 縦位には頭位及骨盤端位とあり其各は更に數種に分つ詳細は正規分娩を参照せよ。

○胎兒心音と子宮雑音の數及鑑別如何

(奈良大正七、四)

○妊婦腹部に於て聴取すべきもの

(埼玉大正七、四)

○骨盤外計測法

(東京大正七、十)(東京大正六、四)

○同上

(埼玉大正六、十)

○同上

(新潟大正七、四)

○骨盤外計測によりて測定すべき徑線の名稱

(東京大正七、四)

○骨盤に於ける産科學上必要なる部位の名稱を列記し其位置を問ふ

(和歌山大正五、四)

○骨盤外計測の目的及諸徑線

(千葉大正五、十)

○生體に於ける骨盤計測法及各徑線の長さ

(愛知大正五、十)

○妊婦(妊娠末期)診察法

(東京大正四、十)

答 廣き問題故要點を述べ尙次の内診法をも忘るべからず。

○妊婦を診察して分娩の難易を豫想する注意點

(千葉大正七、十)

答 獨習書257頁

月 日 ( 曜日 )

### 復 習

- 58、聴診により聞き得べきものは何々なりや。
- 59、胎動、胎児心音、子宮雑音を初めて聴取し得べき時期。
- 60、臍帯雑音發生の理由。

### 講 義

(教科書頁二二八—二三三頁)

### 第三章 内 診

#### 第一節 内診の方法

内診に用ふる手は右手のみでなく左手でも練習して置くと甚だ便利である。

消毒した手は消毒液に浸した儘之を拭はずに、5%石炭酸オレノ油を塗つて内診するのである。

#### 第二節 内診すべき順序

##### 第一 腔

壁の粘膜に皺壁の有無は初妊經産の鑑別に必要である。腔壁が伸張し易いか否かは分娩時に胎兒の通過の難易に大なる關係を有するもの故、妊娠中より豫めこれを検査して若し伸張力の少ない時即ち鬆粗性の乏しい場合には妊娠中から醫師の診察を乞はしめ適當の治療を受けしむるがよい。大きな癍痕のある場合も亦同じである。其他腔壁が絞肌の様「ザラ」「ザラ」と感ずるのは或は淋毒性疾病があるのかも知れない。尙腔の前壁を壓して尿道部が痛んだり尿道口より濃汁の出るのは淋毒其他の異常があるものと思ふてよい。腔腔の廣狭は分娩時通過障礙有無を定めるためのみでなく初妊經産の區別にも必要である。

第二編 妊婦診察

第二子 子宮

下向部は分娩時子宮口の開大して後は子宮口の方より觸知するのである。
陰部の長短は妊娠月數又は初妊經産の診斷に必要である。保存とは子宮陰部が
出臍の如く腔内へ突出してゐるのを云ひ、之れが漸次に短くなつて少しも突出
しない様になれば之れを消失と云ふのである。
子宮口の狀態は初妊經産の區別及其大さは分娩の開始したか否かを知るに必要
である。

△分娩時の内診では第二の次に 第三卵胞、第四胎兒下向部 を診なければな
らぬ。詳細は正規分娩に於て述べよう。

第三 骨盤の廣狹

骨盤腔の諸内徑中最も必要なのは骨盤入口の徑線就中眞結合線である。之を計
るには特別の機械を要し而も未熟の者には計り難いから産婆は通常手指を以て、
對角結合線(對角徑)を計り之から二仙米を減じて眞結合線の長さとするので
ある。例へば對角結合線が十三仙米ならば眞結合線は 13-2=11 仙米である。

對角結合線計測法 手を消毒し右手の示中兩指を腔内に入れて之を揃へて伸し
拇指は外陰部に觸れない様に充分に開き、環指と小指は手の掌の前に屈げて會
陰を壓し、中指の先端を薦骨岬に達せしめ、示指の撓骨側を耻骨接合下線に接
觸せしめ、其接觸部を左手の示指先端で以て標しながら右手を抜き、其部分と
中指先端との間の距離を計るのである。(第一〇九圖)
此方法も未熟の間は甚困難であるから徒に妊婦を苦しめないで成べくは醫師に
其診察を乞ふのが可い。
骨盤に就いては薦骨尾骶骨關節の運動性、坐骨棘間の距離、耻骨弓角度の大小
等をも檢べるがよろし。

第四 外陰部

會陰、陰、子宮陰部の伸展性は分娩時の胎兒通過の難易に著しい關係を有する
ものである。
陰唇等の皮膚着色又は粘膜の藍赤色は、妊娠の診斷上必要である。
分泌物は妊娠中増加するのが常であるが左の如き場合には異常と見做して醫師

第二編 妊婦診察

の診察を受けしめねばならぬ。

(一) 分量の甚しく多い場合

(二) 緑色又は黄色を帯びた時 (膿汁の如き時)

(三) 血色を混じた時

△初心の者は内診の際兎角胎兒下向部のみに注意力を奪はれ他の部分を見落すことが多い、特に外陰部の状態の如きも兎角忘れ勝となるから手指を陰より抜かうとする時には必ず外陰部を忘れない様に診ねばならない。順序としては外陰部を先にする筈なれど此所にて汚染した手指を内部に挿入するのは好ましくないから此處は最後に見るのがよろしい。

第三節 内診の目的

教科書に掲げた内診目的の順序は明日講義すべき「診察の結果、結定すべき事柄」の順序と同様に記してあるから明日此所を再び對照するとよい。

第四節 内診時の注意

第一 消毒を嚴重にすべし

妊娠時の生殖器は甚だ鬆粗となつて居るから微力によつても損傷を起し易い。特に分娩時には常に必ず損傷を生ずるものであるから若し消毒不十分の手指を以て内診すると、細菌は以上の損傷から體內に侵入する、然るに妊娠及分娩時の生殖器組織は血管及淋巴管に富み細菌の繁殖蔓延し易い状態になつてゐるから細菌は短時間に忽ちに盛に増殖して毒物を作り以て身體に危害を與ふるのである。假令手指を嚴重に消毒しても外陰部を消毒しない時は之に觸れた手指は消毒しないものと同じである。

第二 粗暴なるべからず

前に述べた様に妊娠中の生殖器は甚だ鬆粗となつて居るから微力によりても損

傷し易い、殊に分娩の時に子宮口若しくは子宮頸管の開いてる時は一層注意して、卵膜を破らない様、且つ卵膜と子宮壁との間に指を挿入しない様注意せねばならぬ。若し卵膜を破る時は種々の異常を來し母子の不幸を招くことがある。其他分娩時の内診中に陣痛が發作して來たら、指は其儘にし靜に陣痛發作の歇むのを待たねばならぬ。(第三卷分娩時内診法参照)

第三 長時間に亘るべからず

長時間に亘る時は從つて傳染の危険も多し。

第四 無用の内診を避くべし

手指は之を如何に嚴重に消毒しようとしても他の器械類の如く熱力を應用し得ないから全然無菌の状態とする事は出來ぬ。又挿入の際に外陰部等の細菌を附着せしむる虞もあるから數回殊に長時間内診すると自然に傳染の機會を多くするものである。故に避け得べくんば之を避くるが可い。即ち胎兒下向部と骨盤との關係の如きは第四段の方法を熟習せば、内診をしないで済むのである。分娩時に臍帶が脱出して胎兒に危険のあるか否かも聽診で之を推知する事が出

來る。又子宮口開大の程度も子宮壁の收縮状態によつて外診上想像出來る。然れど徒らに内診をおそれ、必要な内診を忽せにして母子の危険を看過し延いて治療の期を失せしむる如きことがあつてはならぬ。即ち『内診は成るべく之を節約すべし而も必要なる内診は之を忽にすべからず』と云ふのである。

附 雙合診

雙合診によりて子宮の大小、硬軟、位置、形狀。胎兒の各部並に其の移動性が判る。殊に妊娠初期に於て必要な診察法である。

◎ 診察全般の注意

問診、外診、内診、に際し常に次の二點に注意せねばならぬ。  
一、胎兒附屬物、胎兒及び母體に起る種々の状態(第一編)を熟知し居らねばならぬ。

第二編 妊婦診察

二、成可く綿密に又成可く短時間に診察せねばならぬ。綿密にして而も時間を短縮するには必ず一定の順序を守つて診察すればよい。

三、診察の所見は之れを記録して保存するが宜しい。

(妊婦診察記録例は本校にて發行す)

書取「しんてんせい」「こうはく」「たいかくけつがふせん」「さうがふしん」

政府試験問題

○妊娠末期に於て内診により知り得べき事項を記せ (兵庫大正二、四)

答。第三節中第一項を除きて他を記すべし。就中此問題に對しては第三項を最も重要とす。

○妊婦内診法 (東京大正六、十)

答。第三章中第一節及第四節を主とし、第二節の大體を記すべし。

○雙合検査により利ある點を記せ (埼玉大正五、十)

答。説明書中雙合診の條下を記すべし。(253頁)

○妊婦内診時に探知すべき事項を列記せよ (和歌山大正七、四)

答。第二節及第三節を記すべし。

○對角結合線とは何ぞや及其測定法 (大阪大正五、九)

○妊婦に行ふ内診の目的 (千葉大正八、四)

如何はかし君は嬉しく思ふらん

あけしうふやの嬰兒の聲

(助産の業)

やすくと世嗣の初子けふあけて

君喜ひの酒やくむらん

(同上)

乙部 診断事項





を來すのである。

骨盤狹窄、軟部産道硬靱、胎兒過大著しき畸形、横位其他の位置異常がある時は抵抗異常を來し、從つて胎兒の娩出を遅延せしむるのである。胎兒の数は抵抗に直接の關係はないが、複胎の時は屢々位置異常を來し、易く從つて通過障礙を起すこともあるのである。

以上諸項の中、骨盤の異常、及軟部産道の異常、胎兒の大きさ及形状の異常は、妊娠異常及分娩異常編に於て詳細に講義するから、今は次の各章を順次に講義しよう。

母體	胎兒
第一章 妊娠の決定 (妊娠の徴候)	第一章 胎位胎向診断法
第二章 初妊と經産との鑑別	第二章 胎兒數診斷法
第三章 妊娠時期決定法—分娩日豫定法	第三章 胎兒生死診斷法
第四章 胎位胎向診断法	
第五章 胎兒數診斷法	
第六章 胎兒生死診斷法	

### 第一章 妊娠の決定

#### 第一 不確徵 (妊婦全身に起る變化)

第一編、第三章、第二節、妊婦全身に起る變化を復習せねばならぬ。但し體重、體溫、脈搏、呼吸は妊娠の決定として價値が少いからこれを省いて、消化器以下の各項を参照したらよい。

#### 第二 半確徵 (妊婦生殖器の變化)

一、月經の閉止  
晨に詳説した如く妊娠中に月經様の出血を見る事が往々ある、又反對に妊娠でなくて月經の閉止する事も尠くないから、單に月經閉止の一事で以て妊娠と診斷するのは不確實である。

然し二三ヶ月月經が閉止して悪阻の徴候がある時は、妊娠と考へて先づ誤る事は少なう。

二、子宮の變化

子宮の腫瘤又は其他の疾病の爲に子宮の増大する事がある。

子宮は妊娠初期に於て特に前後徑を増して球形となり五六ヶ月には全く球形となり遂に卵圓形に變ずるのである。

其他後に述べるピスカツエック氏徴候及へガール氏徴候をも參考したらよい。

三、子宮雑音

初學者は往々これを確徴と思ひ誤る事がある。然し之は妊娠以外例へば子宮筋腫等の時にも起るから半確徴に屬すべきものである。

△腹壁其他の皮膚變化を此半確徴に加ふることもある。然し或特殊の疾病の爲

め男子でも皮膚に着色を來す事もあるし且つ婦人生殖器の直接の變化でないから本書はこれを不確徴の中に加へたのである。

第三 確徴 (胎兒の生活現象)

此確徴は之を産婆自ら明確に認むるを要するのである。母體の脈搏數の多い時に大動脈音を胎兒心音と誤つたり、子宮雑音を臍帶雑音と誤る事があるから注意しなくてはならぬ。

又腫瘍等を胎兒部分と誤つてもならぬ。或は又妊婦自ら胎動を感じたと云ふても必ずしも胎兒の運動でなくて腸管又は腫瘍等の移動したのを誤りて感じたのかも知れないから注意を要するのである。

政府試験問題

○妊婦を診察して調査すべき條項を列記せよ

(和歌山大正七、四)

答。診察の結果決定すべき事柄を記すべし。

○妊娠の徴候を記載せよ

(神奈川大正元、十)

○同上

(群馬大正六、十)

○妊娠の徴候

(東京大正八、十) (福岡大正四、十)

○同上

○同上

○正規妊娠の診断

○ヘガール氏妊娠徴候とは如何

○妊娠前半期の徴候

○答。不確徴及半確徴を記すべし。

○妊娠の確徴

○同上

○同上

○同上

○同上

○妊娠確徴及其現はれ来る時期

○答。胎兒心音は五ヶ月末、臍帶雑音は後半期、胎動は聴診四ヶ月末觸診五ヶ月末（妊婦初覺も五ヶ月末）胎兒部分觸知は内診四ヶ月、外診六ヶ月。

(東京大正六、十)

(福岡大正七、四)

(東京大正三、四)

(東京大正七、十)

(東京大正四、十)

(栃木大正八、十) (茨城大正二、十)

(京畿大正七、六) (埼玉大正三、十)

(山形大正七、四)

(佐賀大正七、四)

(北海道大正七、四)

(東京大正四、四)

月 日 (曜日)

復 習

62、妊娠の確徴を問ふ。

講 義

妊娠早期診断法

早期診断は産婆に必要少いがせめて徴候の名稱丈けれども知らせたいから次に其大體を述べよう。

(教科書二三七頁—二四一頁)

第一 ビスカツエック氏徴候

此徴候は妊娠四ヶ月以後には失はるのである、即ち五六ヶ月には子宮は全く平

第一章 妊娠の決定…妊娠早期診断法

等球形となるのである。

### 第二 ヘガール氏徴候

ヘガール氏徴候の判る頃は子宮は通常強度に前屈して居るのである。

### 第三 アプデルハルデン、木内氏徴候

通常肘窩の皮下静脈に針を刺して血液を採り、之れを試験管に入れて暫く放置すると血清と凝血とに分れるから其血清を試験して妊娠か否かを識別するのである。其の學理を参考の爲めに次に述べてよう。  
抑も吾人が攝取した食物は一旦消化器で消化され、蛋白質でも何でも最早此上分解し得ぬと云ふ迄に分解せられた後始めて血管に吸収せらるゝので、これが血液成分となつて身體の各部を巡り到處の細胞を養ふのである、然るに充分消化せられないもの即ち此上分解すれば尙分解し得べき筈のものが血液中に入つて來る時は、其儘にては各處の細胞を養ひ得ないのみでなく却つて身體に有

害となるから、自然の妙機はこゝに血液中に分解酵素を生じて之れを細かに分解し盡して身體に害のない様にするのである。今試に動物の血液中に蛋白質なり糖分なりの營養物を注射して見ると、血液中に之を分解する酵素を生じてこれを分解するのである。

アプデルハルデン氏血清診断法は以上の道理を應用したるものである。即ち妊娠すれば外卵膜に絨毛を發生し其絨毛の一部分が妊婦の血液中に入るから、妊婦の血液中には自ら此絨毛成分を分解する酵素を生じ片つばしからこれを分解してある。故に血液中に此酵素があるか否やを検するのは、取りも直さず妊娠して居るか否かを決するもので、診断すべき婦人の血清を取り、これに分娩の終つた別人の胎盤(絨毛組織を含む)を合せて見てこれを分解し得れば其婦人の血清中には絨毛を分解する酵素がある即ち婦人は妊婦であると診断し得るのである。反之分解し得ない場合は絨毛を分解する酵素がない即ち妊娠でないとして断定し得るのである。  
木内博士は、尿中に於ても此酵素を含むことを知つて血清の代りに尿を以て

妊娠を診断し得るに至つた。只遺憾なのは之等の方法でもまだ百發百中と云ふを得ない事である。

妊娠と區別すべき類症 (類症とは類似せる症候を云ふ)

甲 妊娠初期と區別を要する子宮の増大

一、慢性子宮實質炎 二、子宮筋腫

以上二つ共に、子宮増大し粘膜炎は帯血の爲め藍赤色に變じて妊娠初期と誤る事がある。

然し、(一)妊娠子宮の如く柔軟でなく、(二)月經閉止はなく、多くは却て月經過多症となるのである。

三、子宮血腫

これは月經血液の排出路が閉塞し、子宮腔内に血液を蓄積し、爲めに子宮増大月經閉止を來すのである。

然し、妊娠と異い毎月經時に疼痛及子宮の増大を來すのである。

乙 妊娠と區別を要する腹部の膨大

一、卵巢囊腫

共大なるものは腹部の膨隆甚だしくて屢々妊娠と誤る事がある。

而も、(一)月經は必ずしも閉止せず、(二)腹部の膨大妊娠月數に相當せず、(三)妊娠確徴もなき。

二、腹水

腹水とは腹腔内に液の滯留して腹部の膨滿するものである。(卵巢囊腫等と共に之を俗間で脹滿と總稱して居る。)

三、鼓腸

腸管内に瓦斯が充満して従つて腹部の膨脹を來すものである。

四、脂肪過多症

以上二、三、四何れも腹部膨滿し殊に脂肪過多症は屢々月經も閉止するから妊娠と誤る事がある。

然し、(一)内診上子宮の増大を認めず、(二)妊娠の確徴もない。

五、膀胱の充盈

妊娠四ヶ月位の大きさの子宮と誤る事がある。然し診察前に必ず排尿せしむれば此誤を招くことはなす。

六、慢性腹膜炎

多くは結核性腹膜炎であつて腹部膨隆、月経閉止等の爲めに妊娠と誤る事がある。然し、(一)營養障礙が甚しく、(二)妊娠の確徴を明確に認め得なす。

曾て或産婆が、悪心嘔吐、食欲減退、月経閉止、腹部膨滿、胎兒部分の觸知、胎兒心音聴取等によつて、妊娠と信じて取扱つた婦人が實は妊娠でなくして醫師から結核性腹膜炎と診断せられたる例がある。これは妊娠の確徴を明確に認めなかつたからで、胎兒部分と思つたのは結核性の

淋巴腺腫で、心音と認めたのは母體の大動脈音であつたのである。これを以て見るも、妊婦診察時には先づ母體脈搏の遲速を診る事が必要であることが判るであらう。

七、想像妊娠 (妄想妊娠)

之は妊娠を熱望の餘り自ら妊娠と思ひ込んだ爲、精神的に悪心嘔吐嗜好の變化

食慾減退等を來し、自分で妊婦と確信し、其歩行も自然妊婦の様子に倣ひ精神的に月経も閉止し、腹壁脂肪が増加した爲め腹部も漸次に膨れ腸の蠕動等を胎動と間違へ、甚しいのは腸等の痙痛を陣痛が始まつたと云いだし、迂濶な産婆は夫れに吊り込まれて分娩の仕度をして如何に待つても出て來なかつたなどの滑稽を演じた例もあつたと云ふことである。

之は全く精神的症候であつて、醫師又は産婆が診察の結果妊娠でないと言ふて諭せば之等の症状は勿然一掃せらるゝのが常である。然るに又精神に異常ある婦人に來る事もあり。或は又却つて妊娠を恐怖する婦人に來ることもある。

或る若き未亡人が公けにされない行爲をして、切に妊娠を恐れた爲め、月経も閉止し、腹部も膨大し、其他の妊娠徴候を起し、煩悶の末某専門醫を訪ふたら、醫師から想像妊娠だと診断せられて、俄かに安心して歸宅したと云ふことである。

政府試験問題

○妊娠初期の徴候並に妊娠と誤診し易き各種の疾病をあげ其區別すべき要點を記せ

(群馬大正三、五)

第二編 妊婦診察

答。妊娠初期の徴候は、早期診断法に述べたる外に不確徴及び半確徴を記すべし。

○妊娠七ヶ月と同大の腹腔内腫瘍との鑑別を問ふ。(和歌山大正三、十)

答。前記類症の乙の一と假定し其區別中殊に(三)を詳記すべし。

○妊娠の不確證疑證及確證を記せ

○外診上妊娠したることを確定する徴候

(神奈川大正九、四)

(東京大正九、四)

如何ばかり嬉しかるらんけふよりは  
 はとよはれて抱く嬰兒  
 安けくも事なくあけし此玉は  
 いへをも照すたからならまし

月 日 ( 曜 日 )

講 義

(教科書第二四一頁—二四四頁)

第二章 初妊と經産との鑑別

世間には往々結婚前に既に分娩したとあるのを掩蔽して、初妊を装つて産婆に診察を依頼する事がある。産婆が若し疎漏に診察して初妊婦と信じて分娩を取扱ふと、分娩は思ひ掛なく早く経過して、狼狽の餘り失敗を來すことがある。又産婆は初妊と經産の區別につき法醫學上の鑑定を命ぜられることもないでないから、能く之を鑑別しなければならぬ、次の一、二、三は主に外診により、

四、五、六は内診によりて檢知するのである。

一 乳房

乳房の變化は經産婦殊に哺乳した人に著しい數回哺乳した人の乳頭は長くて弛



緩で居て其基底(附根の所)は絞扼れて居る、即ち急須の蓋の「ボチ」の様になつて居る。

經産婦は初妊婦よりも乳腺炎等を多く起し従つて其の治療した痕も多から、之も亦参考の一に供してよい。

二 腹部

初妊婦の腹壁は緊張の度が強いから、妊娠第九ヶ月末に至れば子宮底は最も高く心窩部に達し、心窩部は指を以て壓入し難い。經産婦にては腹壁が弛緩してゐるから第九ヶ月に至るも子宮底は心窩部に達しないで、子宮底は前方に傾いて、心窩部は通常深く壓入し易い。又腹部の形は球状に近くなり、或は時に懸垂腹となることがある。新妊娠線はあつても通常初妊婦の様に着明の赤色を帯びてない、數回の經産婦の腹壁は皺裂があつて又一般に薄くて、殊に正中線の部の甚だ薄いことがある。これは左右直腹筋の間が開いた爲めて、此の部分の皮膚の直下に子宮を觸るゝ様に感ぜらるゝ程薄くなつて居ることがある。

三 胎兒下向部

胎兒下向部は初妊婦でも次の様な場合には分娩になつても尙未だ骨盤内に固定し得ない事がある。

兒頭の過大又は過少。骨盤の狭窄又は過大。羊水過多症。前置胎盤(其他は異常編で詳に述べよう)

經産婦では通常は子宮口開口期第一期のうちに固定するものである。

四 外陰部

陰唇繫帶、會陰部其他の「其他」とは尿道口陰核の附近、膣口の周圍等を云ふのである。處女膜の基底とは膜の附根の所を云ふのである。

(第一卷第五十六圖參照)

五 膣

袴でも古いのは襷が失はるゝが、經産婦も皺壁を減ずるのである。

六 子宮腔部及子宮口

此區別は最も重要なものである。

初妊婦の子宮腔部は下方に至るに従つて細くなつて花の蕾の様である。經産婦

の前後兩唇は幾分花瓣の状をして花の將に開かんとするが如き風のあるものである。  
經産婦の子宮口の左側に大きな裂痕のあるものが於い、之れは分娩の殆ど三分の二は後頭が左方に向つて娩出して其後頭によつて破られたものである。

注意

一 初妊婦に對する注意

- (一) 腹壁の弛緩又は妊娠線などは、腹水、腹部の腫瘍等の去つた後にも超ることがある。
- (二) 疾病(例へば梅毒)、外傷、手術の後に生殖器に瘢痕を残すことがある。

二 經産婦に對する注意

- (一) 前回分娩時の妊娠月數の早いもの程、經産の證據が不充分となるのである。

(二) 前回の分娩後永い年月を経過する程、經産の徵候が不明となるのである。  
以上の場合に初妊婦と診斷してはならない。

政府試験問題

- 妊娠末期に於る初妊と經産との區別 (兵庫大正五、四)
- 同上 (岐阜大正六、四)
- 未だ妊娠せざる婦人と經産婦との區別 (千葉大正五、十)
- 妊娠第十ヶ月に於る初妊經妊の區別 (大阪大正五、九)
- 初妊と經産の區別 (東京大正八、四)
- 同上 (江原道大正七、四)
- 妊娠類似症の種類を鑑別せよ (埼玉大正八、四)
- 經産婦の鑑定 (栃木大正八、四)

月 日 ( 曜 日 )

講 義

(教科書二四四頁—二五〇頁)

第三章 妊娠時期決定法(分娩日豫定法)

此決定には、問診のみでなく外診及内診も必要である。

第一節 問診によりて定むる法

一 最終月経より計算する法

曾て述べた様に最終月経第一日は眞の妊娠の第一日ではないが月経以外には妊娠の第一日を定める良法が無いから昔より今日に至る迄最終月経の第一日を假に妊娠第一日と見做して計算するのである。而して月経の終りの日としない理

由は其日は人々によつて三日—七日の差があるからである。最終月経第一日より數へ、少いのは二百四十日(平均日數より四十日不足)多いのは三百二十日(平均日數より四十日過剩)で而も普通と同様な成熟胎兒が生れたとすれば、これらの日數も正規の妊娠持續日數と認めてよいものである。一般に妊娠持續日數は月経一週期日の十倍と認めてよいものであるから、一週期の日數の少ないものは妊娠持續日數も短く一週期の日數の多いものは妊娠持續日數も長いのであると云ふ人がある。

太陽曆の九ヶ月と四—七日と云ふ差違は、其間に狹まる、大小の月の多少によつて生ずるものである。例へば最終月経が、一月、二月、六月、八月、九月であつた時は九ヶ月に七日を加へ、七月、十月、十一月、十二月であつた時は六日を加へ、三月、四月であつた時は五日を加へ、五月であつた時は四日を加ふれば丁度正しく二百八十日となるのである。然るに、妊娠持續日數は個人的に二百四十日—三百二十日と云ふが如き甚しい相違もあり。又同一婦人でも分娩の度毎に持續日數が異なるから、僅かに四日乃至七日の差違を以上の様に綿密に

第二編 妊娠診察

計算するは徒勞に過ぎない。故に便宜上九ヶ月と七日と計算してよいのである。

【第一例】一月二日が最終月經第一日なる時は分娩豫定日は如何。

$$\begin{array}{r} 1 \text{ 月} \\ + 9 \text{ 日} \\ \hline 10 \text{ 月} \end{array} \qquad \begin{array}{r} 2 \text{ 日} \\ + 7 \text{ 日} \\ \hline 9 \text{ 日} \end{array}$$

答 十月九日

【第二例】四月十日が最終月經第一日なる時は分娩豫定日は如何。

$$\begin{array}{r} 4 \\ - 3 \\ \hline 1 \end{array} \qquad \begin{array}{r} 10 \\ + 7 \\ \hline 17 \end{array}$$

答 翌年一月十七日

【第三例】三月二十五日を最終月經第一日する時は分娩豫定日は如何。

$$\begin{array}{r} 3 \text{ 月} \\ + 9 \text{ 日} \\ \hline 12 \text{ 月} \end{array} \qquad \begin{array}{r} 25 \text{ 日} \\ + 7 \text{ 日} \\ \hline 32 \text{ 日} \end{array}$$

答 翌年一月一日

此第三例を綿密に二百八十日と計算するには九ヶ月と五日を加へ十二月三十日となるべきであるが、果して其日に生るゝものでもないから、便宜上七日を加

へて一月一日とするのである。

二 受胎に關係ある交接日より計算する法

例へば三月二日に交接があつて其前後數ヶ月以内に於て其機會がなかつた場合には、分娩豫定日は十二月の二日とするのである。

此法は航海者等の夫人に應用せらるゝことがある。

以上の場合又は強姦等の例から統計を取ると分娩迄の日數は二百七十一二百七十六日だと云ふことである。

三 胎動初覺の日より計算する法

胎動を初覺する日は、必ずしも五ヶ月の終り(二十四週)と限らない、殊に經産婦では既に經驗あるを以て一二週も早く自覺するのが常である。

何れにしても其自覺の日は甚だ不明瞭で時としては腸の運動等をも誤つて感ずる事があるから此方法は甚だ不確實なものである。

第二編 妊婦診察

▲前にも述べた様に妊婦より其豫定日を問はれた時は「凡そ何日頃が當り日です」と答へたがよい。若し豫定日が月末若しくは月初めに該當する時は「月境です」と答ふるがよい。

▲以上の方法で分娩豫定日を定め得れば従つてこれから現在の妊娠月数を計算する事は容易い。

第二節 外診及内診による方法

問診だけでは妊婦が虚偽を云ふた時又は妊婦に思ひ違のあつた時に間違を生ずるから、問診は只参考にとりて重に外診によつて定め、必要があらば内診もせねはならない。

第一「胎児の大きさ」殊に「見頭の大きさ」により定むる法

此法は極必要であるから、實地に際し決して忘れてはならない。妊娠第四ヶ月以後（即内診により觸知し得べき時期以後）の見頭縦徑の仙米數

は其月數に一を加へた數に等しいと考へたらよからう。此寸法で諸姉自ら各月の見頭の大きさを畫いてみるか或は毬を作つて其大きさを記憶練習するとよい仙米尺を所持しない者は第一巻第三圖を利用したらよろしい。

第二「子宮の大」さ殊に「子宮底の高さ」

其他により定むる法

第一編第二節第一章妊娠各月に於ける胎兒、同第三章第一節妊婦生殖器の變化を復習するがよい。

妊娠第一ヶ月末の子宮の大きさは鶏卵大である、又常時の大きさも鶏卵大である、只妊娠すれば稍々大きな鶏卵となつたのに過ぎない。故に同一婦人に於て常時の大きさと比較して診たのでなければ診断は困難である。胎兒部分の觸知。五ヶ月を中心として其前月にては内診によつて觸知し、次の月には外診によつて觸知し得るものと記憶したらよい。

月 日 ( 曜日 )

復習

- 63、九月二十五日より數日間最終月經ありたりとせば分婥豫定日は何月何日なるか。
- 64、妊娠第六ヶ月の子宮底の高さを問ふ。
- 65、妊娠十ヶ月の腹圍は何仙米なりや。

講義

(教科書二五一頁—二五三頁)

▲妊娠第八ヶ月と十ヶ月との鑑別法

八ヶ月と十ヶ月とは子宮底の高さが同じであるから第廿三表によりて鑑別するとよ。此表の(一)(二)は腹部の視診(三)(四)(五)は腹部の觸診(六)は内診と記憶したらよ。

▲妊娠月數に一致せざる子宮底の高さ

骨盤端位の時の子宮底の高さは頭位の時よりも稍高い。  
 葡萄状鬼胎とは、絨毛膜の絨毛が葡萄の總の様に變つて盛に増殖して子宮全體が著しく大きくなるものである。(稀には葡萄状鬼胎でも子宮が妊娠月數に比し大とならないこともある、又却て小さくなることもないでなす)

◎分婥豫定日を計算する法

(東京大正四、四)

◎分婥豫定法

(埼玉大正六、十)

◎分婥期計算法

(兵庫大正二、四)

答、以上三問は問診による法を主として記し、外診及内診により妊娠時期を決定する法の極めて概略を述べ、それより延いて分婥豫定日を定め得る由をも附記すべし。

○最終月經が大正六年一月十五日より同二十一日迄なりしと云ふ妊婦を、同年五月二十八日に診察したりとせば、妊娠何ヶ月と何日と算するか。此際に於ける外診上の所見を問ふ。

(千葉大正六、十)

第二編 妊婦診察

○大正七年五月六日成熟胎児を分娩せる婦人の、最終月経第一日及胎動自覺の初日は何月何日と想像するか。

答。分娩日より最終月経第一日を逆算するには分娩の月より九ヶ月を減じ、

(又は三ヶ月を加へ) 分娩の日より七日を減ずべし。(熊本大正七、五)

○妊娠及分娩の時期の鑑定法

答。外診及内診による法を述べ、尙問診により豫定日を定めそれより現在の

時期を計算し得る事をも附記すべし。又八ヶ月九ヶ月の區別及第廿四表をも加ふるを可とす。(分娩時期の鑑定法は正規分娩に於て述べん。)

○妊娠八ヶ月と十ヶ月の鑑別法

(東京大正三、十)

○妊娠八ヶ月と十ヶ月とは子宮底同高に在り此鑑別如何(大阪大正四、四)

○初妊婦に於ける妊娠八ヶ月十ヶ月末の區別

(徳島大正七、三)

○妊娠日數に相當せざる子宮の増大の症状及診斷

(京都大正二、四)

答。第廿四表。症状及診斷は後に其各條下を見よ。

○妊娠月數に比して子宮の過度に増大する疾病の名稱を擧げよ。

- 妊娠月數に比し妊婦の腹部過度に膨大すべき場合を列記せよ (大阪大正五、四)
- 妊娠月數に比し妊婦の腹部過度に膨大すべき場合を列記せよ (香川大正五、四)
- 妊娠月數に比し妊婦の腹部過度に膨大すべき場合を列記せよ (山梨大正七、十)

月 日 ( 曜日 )

講 義

(教科書二五四頁—二五七頁)

第四章 胎位胎向の診斷法

此診斷法の詳細は更に正規分娩の講義にて述べよう。胎勢の異常例へば前頭位、前額位、顔面位、深在横定位等は異常分娩にて詳しく述べよう。それらは分娩時に内診の結果始めて明かに知り得べきものだが若し外診上これを知り得るなら第四段の法に従つてなるべくこれを詳細に診斷し

て置くがよ。

### 第五章 胎兒數の診斷法

雙胎妊娠及分娩の條下にて詳しく述べよう。

### 第六章 胎兒生死鑑別法

他覺症とは醫師又は産婆が診察によつて覺知する症候である、自覺症とは妊産、褥婦又は患者が自身に感ずる症候である。

胎兒心音は熟達した産婆が丁寧に聴診しても聴き得ない事がある。殊に羊水過多症、兒背が後方に在る時、子宮雜音、腸管雜音、診察室の騒音等の甚しい時はこれを聴取し得ないこともある。

臍帶雜音は聴取し得ない場合が寧ろ多い。

胎動も亦診察時に常に必ず認め得ると限らない。

故に以上のものが不明なればとて直ちに胎兒死亡と決定してはならない。

違和とは氣分の悪いのを云ひ倦怠とはだるい事を云ふのである。

#### 政府試験問題

- 雙胎妊娠の診斷の要點 (佐賀大正七、四)
- 雙胎妊娠の診斷 (徳島大正七、三)
- 雙胎妊娠の診斷 (山口大正七、四)
- 同上 (大阪大正五、四)
- 妊娠中胎兒死亡の徵候 (兵庫大正六、四)
- 同上 (栃木大正七、四)
- 同上 (神奈川大正六、十)
- 胎兒生死の徵候は何によりて確定するか (千葉大正八、四)
- 答。分娩時の死亡徵候(第五卷に述べ)をも附記するを要す。
- 胎兒の死亡せる事は如何にして診定するか (東京大正七、十)
- 妊娠中胎兒生死の鑑別



月 日 ( 曜日 )

### 講 義

(教科書二五八頁—二六三頁)

66、妊娠中胎児死亡したる時の他覺症を問ふ。

### 第三編 妊婦攝生法

之を、動靜、清潔、衣、食、住に分けて説明しよう。

#### 第一章 運動と安靜

一 適當な運動 例へば室外の散歩をしたり、平易な家事に従事する時は、血行を旺盛にし、精神を爽快にし、食機を進め、便通を整へ以て健康を助長することが出来る。

二 運動の不足 は消化力を障礙し、便秘を來し、時に不眠症又は神經過敏症

等に陥らしむることがある。

三 過劇又は不適當な運動 は往々子宮の收縮を起し遂に流産早産等を招く憂がある。杞憂とは取越し苦勞を云ふ。

#### 第二章 清潔

膣は醫師の指圖なくして洗ふてはならぬ、乳暈、乳頭の皮膚薄弱なるものは「アルコール」で時々摩擦してこれを強固にするがよい。

#### 課外講義

#### 分娩に關する傳説と迷信

昔からある諸種の傳説の中には、多少教訓的意味を含み、或は行儀を慎む事を教へ、或は精神に大なる感動を興ふるのを避けしめたり、或は妊娠中の食品の注意を興ふる等、有益なものも少くないが、其説多くは牽強附會に過ぎないか

ら、教育ある妊婦に對しては口にしてはならない。  
 例へば、柄杓から水を飲むと柄杓の様な兒が出来ると云ふのは、恐らく半頭兒を見て附會した説であらう。袋から直ちに物を食べるか又は、袋を破らずに捨ると袋子が生れると云ふのも、袋子と何の原因的關係あるものではない。雙栗を食べると雙胎兒を生むとか、兎を食べると兎唇の兒が生れるとか、章魚又は鮑の類を食べると其の様な子が生れる等云ふのは全く荒唐無稽の説と云ふてよい。香月啓益著の『婦人壽草』の中に、『妊婦火災の時に火を見るべからず、心氣を驚動して胎氣安からず、生子必ず身中に赤痣出来るものなり、私俗之をほやけと云ふ』と書いてある、又俗間殊に教育ある婦人の間にも之を信ずる者もあるが、火事と赤痣とは、共に赤いと云ふ事の外は何等の關係もないものである。只火事を見る時は妊婦を驚かし、時に流産などの誘因となる事があるから此點にて一部の教訓を與へて居るに過ぎない。  
 牛を酷使すると牛の様な子が出来ると云ふのは指の癒着したもので、鳥を虐めると鳥足が出来ると云ふのは多指症を云ふたものである、之等は何れも畸形で

### 進化論と胎兒の發育

あつて、産婆は分娩取扱に際して時に見るものである。

獵夫が狸の様な子を生んだと云ふ様な事は、『祖先歸の説』で解る。進化論者は吾々人類は動物から進化したもので、夫れが往々祖先に歸るは不思議でないといふて居る。實際現今にても尾の有る人も居るし顔面に毛の生えて居る人種もあるし、又副乳と稱し都合二對の乳を有して獸類時代の面影を存するものもある。諸姉が妊婦を診察する際に、普通の乳頭より腋窩に向つて迎つて注意すると、時に小さな疣の様な乳頭を發見する事があるであらう。  
 胎兒發生の順序を見ると、恰も祖先以來の進化の跡を繰返して居る。即ち胎芽の間は人類か或は動物か區別し得ないで、尾も有れば、鰓も有る。即ち受胎後分婉迄二百八十日間の發育中には、何萬年前の單細胞生物より今日の人類に迄進化し來た要點を繰返して居るのである。生れた子が偶々祖先の或る時代に歸つて、毛が多かつたり、尾を有たり、するのは必ずしも不思議でない。

分娩に關する傳説と迷信

胎教 (胎内教育)

妊娠中に母の精神状態が其儘子に移り行くと云ふ説は昔から内外共に稱へられて居る。周の文王の母太任は文王を孕むに及んで、目に悪色を見ず、耳に淫聲を聞かず、口に傲言を出さず以て明聖文王を生んだと云ふのは、有名な話である。我國、伊藤仁齋先生は妊娠中の夫人に毎夜聖賢の佳書を読み聞かせたところ、博識の君子伊藤東涯先生を生んだと云ふ事である。又奥國の大音楽家モツアルト氏が胎内に有つた時母は終日音楽を嗜み居たのだが、其後母が音楽を止めた後生んだ子は樂才全く平凡であつたと云ふことである。

之等は必ずしも、妊娠中の影響と云ふよりも遺傳の支配を受けたのか、或は生後の教育宜しきを得た爲めと云ふ事が出来る。即ち妊婦の精神状態は直接胎児に影響するものではない。然れども妊娠中の精神状態は其肉體に影響し從つて胎児の發育營養に關係を及ぼし胎児肉體の健否は延いて其精神状態を左右し得ると云ふことが出来る。

復習

月 日 ( 曜日 )

67、妊婦攝生法中運動に關する各項目を擧げよ。

講義

(教科書第二六三頁―二六六頁)

第三章 衣服

本邦婦人は日常帯を以て胸部及腹部を緊縛する習慣があるから妊娠中はかゝる事の無い様に注意せねばならない。

腹帯は、「フランネル」又は木綿を以て幅廣く作り、恥骨接合より子宮底に至る迄を強からず緩からず程よく平等に纏ふのがよい。近來諸種の腹帯を製造販賣するものがあるが、以上の諸點に適するものなら何れを用ひてもよい。然し凡

ての妊婦に其様な胎帯を必ず要する譯ではない。

### 第四章 食物

不適當な飲食物は、悪阻の誘因となつたり、或は容易に下痢を起したり延いて流産し早産を來す虞がないでもない。

### 第五章 住居

不適當の所に住むと、骨軟化症等と云ふ病氣を誘發することがある。

### 課外講義

#### 結肌帯の話

■結肌帯の起原 我國で腹帯を用ひ初めたのは神功皇后以後の事で、皇后三韓征伐の門出に當り腹帯を結めて鎧の引合を合せ「歸朝迄は産のない様に」と

祈願して出征し給ひ、後筑紫伊都の縣に凱旋の上、目出度皇子を安産せられた故、以來上つ方の人々が、其目出度さに肖からんとて皇后の腹帯に倣ひ、後々はこれが一種の儀式となつたものが上のなす所下これに倣ふの例で遂に上下一般に普及するに至つたものであると傳へられて居る。(されど確實な考證のある説ではない。)

■結肌帯の昔の目的 其最初の目的は以上の様に目出度幸先を祝ふ一の祝福の儀式に過ぎなかつたものであつたが、後これに附會して胎兒の過熟を防止し得べき手段としたのは大きな間違である。殊に其目的を達しようとして幅の狭い帯で緊縛するのは殊更有害の事である。

- 妊婦攝生法
- 同上
- 同上

(千葉大正四、十)

(兵庫大正五、四)

(秋田大正七、四)

人知れず肌にひすふいはた帯  
こゝろくるしき時をこそまて

吳 竹 集

行すゑのさかえを結ぶいはた帯

うこかぬ千代の根さしなるらん

殿 村 茂 濟

人しれす肌にひすへと妹と脊の

かたきいはたの帯とこそ知れ

楢 井 守 誠

大正七年八月廿九日初版印刷  
大正七年九月五日初版發行  
大正九年五月二十三日再版發行

正價金七拾錢

送料金四錢

佐久間兼信

發行者兼

東京市神田區三崎町三丁目一番地  
私立東京助醫女學校

發行所

電話番町二六八・振替東京三九九二

東京市神田區美土代町二丁目一番地  
島 連 太郎

印刷人

東京市神田區美土代町二丁目一番地  
三 秀 舍

印刷所

東京市本郷區龍岡町三十四番地

南山堂書肆

電話下谷四一七八・振替東京六三三八

特約賣捌

150  
570

肆 書 捌 賣

本郷區湯島切通坂町  
日本橋區通三丁目  
本郷區春木町二丁目  
同區同町三丁目  
本郷區龍岡町  
同區湯島切通坂町  
神田區鍛冶町  
本郷區元富士町  
本郷區元富士町  
本郷區龍岡町  
本郷區龍岡町  
湯島切通坂町  
同  
神田區表神保町  
芝區愛宕町  
大坂市中心齋橋筋一丁目  
同博勞町  
名古屋市中區榮町

南江堂書店  
丸善書店  
半田屋書店  
南江堂支店  
吐鳳堂書店  
金原書店  
朝香屋書店  
明文館書店  
文光堂書店  
朝陽堂書店  
根津書店  
文榮堂書店  
宮澤書店  
富倉書店  
東京堂書店  
明文館支店  
松村九兵衛書店  
丸善書店  
丸善書店

名古屋市中區老松町  
名古屋市中區橫三藏町  
京都市三條寺町  
同寺町通  
同三條通  
仙臺市國分町  
長崎市引地町  
熊本市新二丁目  
同洗馬町  
鹿兒島市仲町  
岡山市内山下  
同東中山下  
福岡市博多  
金澤市片町  
金澤市廣坂通  
新潟市古町通  
千葉縣千葉町  
同  
同

大竹書店  
三輪書店  
南江堂京都支店  
若林茂一郎  
丸善支店  
丸善支店  
集榮堂書店  
長崎次郎  
芹川書店  
谷村書店  
渡邊書店  
文江堂書店  
丸善支店  
宇津宮書店  
いんや書店  
萬松堂支店  
明文館支店  
松田屋書店  
豐文堂書店

終

